

埼玉県皮膚科医会

会報

Vol.10

令和4年(2022)

特集 振り返る、この10年



埼玉県皮膚科医会会報

第10号 2022年

目 次

巻頭言

Ya sama ! 私にはできる	会長 仲 弥	1
------------------------	--------------	---

特集「振り返る、この10年」

齋藤が選ぶ会報誌の文章	さいたま市緑区・さいたま市立病院 齋藤 京	3
会報誌黎明期から10号までの追想	川越市・仲皮フ科クリニック 仲 弥	4
獨協医科大学越谷病院に赴任して	越谷市・獨協医科大学埼玉医療センター 片桐 一元	6
閉院、そして新規開業へ 東京都練馬区・早宮クリニック（旧・くるまじ皮フ科クリニック）	車地 祐子	7
振り返る、この10年 「皮膚科医として」「家庭人として」「埼玉皮膚科医会」 和光市・独立行政法人国立病院機構 埼玉病院	中捨 克輝	8
スポーツについて振り返る	さいたま市緑区・さいたま市立病院 齋藤 京	10
日臨皮委員会委員長として	坂戸市・町野皮ふ科 町野 哲	11
浦和医師会皮膚科泌尿器科医会について さいたま市緑区・あきもと皮フ科クリニック	秋元 幸子	12
広報委員会委員長として	さいたま市緑区・さいたま市立病院 齋藤 京	13
日本皮膚科学会キャリア支援委員活動について 川口市・済生会川口総合病院	高山かおる	14
振り返る、この10年	蕨・戸田地区・多恵皮ふ科 井上 多恵	15
約10年を振り返って	春日部市・春日部ヒフ科医院 矢島 純	15
想定外の10年間	川越市・埼玉医科大学総合医療センター 寺木 祐一	17

随 筆

第51回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会を開催して 所沢市・防衛医科大学校	佐藤 貴浩	19
肉を食するという事	さいたま市見沼区・いしだ皮フ科 石田 卓	21
ベトナム人の駆け込み寺	所沢市・おうえんポリクリニック 並里まさ子	23
若い皆さんに明るい未来を... .. 飯能市・本町診療所	佐瀬くらら	24
第12回日本皮膚科心身医学会を開催して 越谷市・獨協医科大学埼玉医療センター	片桐 一元	25
皮膚科動物クイズ	さいたま市見沼区・いしだ皮フ科 石田 卓	27

Derma あごら

お題：手		32
------------	--	----

マイホビー

「ポケットコンピューター」ーレトロポケコンからスマホまでー 川越市・埼玉医科大学総合医療センター	人見 勝博	35
---	-------------	----

病院紹介

さいたま市立病院（さいたま市緑区）	皮膚科部長 齋藤 京	38
上尾中央総合病院（上尾市）	皮膚科科長 出光 俊郎	40
埼玉医科大学国際医療センター（日高市）	皮膚腫瘍科・皮膚科教授 中村 泰大	42

クリニック紹介

多恵皮膚科	蔵・戸田地区・多恵皮膚科 井上 多恵	44
-------	--------------------	----

入会あいさつ

所沢市・おうえんポリクリニック皮膚科	白井 拓史	46
行田市・春山皮膚科クリニック	春山 護人	46
さいたま市中央区・さいたま赤十字病院 皮膚科	三石 剛	47

◆いい店 ♥好きな店

マーケットレストランAGIO〜気楽に楽しめるイタリアン〜		
さいたま市緑区・あきもと皮フ科クリニック	秋元 幸子	48

報 告

埼玉県皮膚科医会 2021年度 事業報告		49
広報委員会報告	委員長 齋藤 京	53
健保委員会報告	委員長 田沼 弘之	54
皮膚の日委員会報告	委員長 中捨 克輝	55
女性会員活性化委員会報告	委員長 高山かおる	56
2021年 第12回「ひふの日」市民公開講座		
和光市・独立行政法人国立病院機構 埼玉病院	中捨 克輝	57
手荒れ・マスク荒れから皮膚を守ろう！正しい知識とスキンケア		
済生会川口総合病院 皮膚科	高山かおる	58
治る！患者歴60年の皮膚科医が伝える		
アトピー性皮膚炎の最新治療と生活のコツ		
獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科	片桐 一元	59
市民公開講座参加者アンケート結果報告	春日部市・さくら皮フ科 横井 清	60
2021年度 埼玉県皮膚科治療学会 事業報告	埼玉県皮膚科治療学会 会長 片桐 一元	62

県内地域別医会の紹介

令和3年度 大宮皮膚科医会活動報告	石田 卓	63
本庄児玉皮膚科勉強会	佐々木 亮	65
埼玉県東部皮膚科懇話会：令和3年の活動報告	片桐 一元	66
春日部皮膚科勉強会	矢島 純	67
“川越 Dermatology Club” 事業報告（2021年度）	福田 知雄	67
浦和医師会皮膚科泌尿器科医会：令和3年の活動内容	秋元 幸子	68

埼玉県皮膚科医会役員名簿および各種委員会名簿		70
------------------------	--	----

埼玉県皮膚科医会賛助会員		72
--------------	--	----

会則	73
会報投稿規定	75
編集後記	76

表紙写真『振り返る、この10年』

埼玉県皮膚科医会会報も記念すべき第10号を迎えました。

今号ではこの10年の埼玉県皮膚科医会の歩みを表紙と共に振り返りつつ、会員それぞれのこの10年に思いを馳せてみたいと思います。



Ya sama ! 私にはできる

会 長 仲 弥

昨年11月、放送界の栄誉あるABU賞（アジア太平洋放送連合が年間最優秀番組に贈る賞）にNHKの「ミラクルボディー：驚異の人体“超適応” 車いすレーサー タチアナ・マクファーデン」が選ばれました。私は東京オリンピック開催に合わせて放送されたこの番組をたまたま観て大変感動した覚えがありましたので、受賞には即座に納得しました。

タチアナ・マクファーデンは下半身麻痺の車椅子陸上の選手で、パラリンピックに今回を含め5大会連続出場し、短距離からマラソンに至るまでメダルを19個獲得しています。彼女は旧ソ連に生まれましたが、二分脊椎症による先天性下半身麻痺のため、生後3週間で親に見放され、孤児院に預けられました。施設には車椅子を入手する余裕はなく、床の上を這っての生活を余儀なくされていましたが、3歳の時に自ら生き残るために足で歩く代わりに逆立ちをすることを覚え、階段も上がれるようになりました。転帰は6歳の時で、視察のため孤児院を訪れた米国人に見初められ、養女として引き取られました。それを機に米国でスポーツを始めましたが、逆立ち歩きで自然と上半身が鍛えられていたため、すぐに車椅子陸上で頭角を現しました。彼女は子供の頃から困難にぶつかると、いつも「Ya sama !（ロシア語で「私にはできる」）と唱え、乗り越えてきたそうです。

番組では、重い障害を抱えながらも好成績を残し続ける彼女の脅威の身体機能について最新の科学技術を駆使して分析することにより、その秘密に迫っています。そして、脳の第一次運動野と補足運動野が通常人の1.4倍大きく成長していること、また「Ya sama !」がトリガーとなって前頭前野が活性化することが明らかになったことから、彼女の過酷な経験とそれを克服した成功体験の積み重ねが脳の可塑性を引き出すとともに、驚くべき進化（超適応）をもたらし、その結果、生理的限界を超えた極限状態にあっても自らの強い意思で筋肉を動かせるようになったと結論付けています。この番組を観た人は皆、人間の能力の神秘について驚嘆するとともに、「どんな逆境でも、強い動機があれば、人間は進化してそれを乗り越えられる」という希望を与えられたに違いありません。

さて、本会報誌は2013年6月に創刊し、この度10号という節目を迎えることができました。これもひとえにご協力頂いた会員の皆様と編集委員のお陰と感謝しております。過去を振り返り、未来に活かすことは大切ですので、この記念号では「振り返る、この10年」という特集を組ませていただきました。お忙しい中ご執筆頂きました皆様に御礼申し上げます。

2021年度の当医会の活動は、前年度同様コロナ禍のためはかなり制限されましたが、その

時々の置かれた状況に応じて最善を尽くしていれば、この未知なるウイルスとの闘いも近い将来必ず乗り越えることができ、その時にはきっと、より進化（超適応？）した医会に変わっているものと確信しています。

Ya sama（ヤ サマ）！

（川越市：仲皮フ科クリニック）

振り返る、この10年



齋藤が選ぶ会報誌の文章

さいたま市緑区・さいたま市立病院
齋藤 京

この10年を振り返るにあたり、過去の会報を読み返してみました。どの号も充実していて広報委員としてうれしく思います。今回、私齋藤のお気に入り文章を勝手に選んでみました。

1. 巻頭言。長文ではないので、創刊号から9号まで続けてまとめて読んでみてはいかがでしょう？そこに仲 弥会長の「地道に落ち着いて仕事をしましょう」という一貫性が見えてきます。6号かかりつけ医問題、7号AI問題、9号コロナ問題などについての「慌てなさんな」という文章には安心感を貰いました。私、焦りやすいので救われます。
2. 特集。私も5号、9号と担当しましたが、担当者は結構大変です。でもおそらく特に大変だったのは3号の「皮膚科保険診療のアドバイス」でしょう。今後レセプトがAI化されるにあたり、参考資料として輝きを増している名特集です。町野先生、ご苦労様でした。
なお、町野先生は9号「コロナ禍に想う」でも名文を投稿しています。
3. 随筆。力作ばかりなので選ぶのが大変です。
 - 3号 大島康成（以下敬称略）「翼を手に入れた男の話」
 - 4号 石田 卓「私の麻雀遍歴」
 - 4号 大石公美「お姉ちゃんだから」
 - 4号 人見勝博「歴史を探るうちに行き着いた人生論」
 - 5号 片桐一元「治せないアトピー性皮膚炎を主催して」
 - 6号 佐山重敏「日本の医療とカナダの医療」
 - 7号 並里まさ子「ハンセン病とダミアン神父」
 - 8号 伊崎誠一「歯学教育における皮膚科学の重要性について」
 - 9号 佐瀬くらら「げーちゃん物語」

4. マイホビー。

- 創刊号 中井太一「ボディビルディング」
- 2号 出光俊郎「趣味はラーメンについて語ること」
- 7号 中捨克輝「続・海水魚の飼育について」
- 7号 塚原理恵子「芸達者」
- 8号 新井康介「ポケモンGO」

5. いい店

- 7号 人見勝博「埼玉県のソウルフードを提供する、ファミリー食堂「山田うどん食堂」
- 8号 梅本尚可「「人形町」のお好み焼き」

6. 病院紹介。どの文がよいというより、皆様工夫を凝らした個性的な文章で感心します。余談ですが、このコーナーは、私、創刊号に投稿し、今回の10号にも投稿します。どうやら10年位で一周するようになりそうです。丁度いいペースかなと。

7. クリニック紹介。2号の佐瀬くらら「ママのおへやともものお部屋」が記憶に残ります。

8. 豆知識。とても勉強になります。私が最も「そうだったのか！」と驚いたのは4号55ページのヨードカリの話です。

あくまで私の個人的好みなので、偏っています。長文と難しすぎるものが少なく、「へえ〜知らなかった」「凄いなあ」が多いです。でも、考えさせられる文も選ぶ傾向があります。ご了承ください。

.....



会報誌黎明期から10号までの追想

川越市・仲皮フ科クリニック
仲 弥

創刊をはじめ編集や発行で印象に残っている出来事を書き連ねます。

瑞穂印刷との縁：出会いは私がまだ大学に在籍していたころに遡ります。私は1991年から6年間「日本医真菌学会誌」の編集幹事を担当しましたが、その出版は瑞穂印刷が請け負い、編集会議には全国の高名な先生方に混じって当時社長の菅野義雄氏が毎回必ず参加してくれました。その真摯な姿勢にはいつも出版人としての職人魂を感じていました。私は立場上編集に関する専門的なノウハウを義雄氏から多々授かり、それが後に大変役立ちました。編集幹事を拝命した時には厄介と思いましたが、今では感謝しています。その後私は開業し、2002年から「日臨皮会誌」の編集担当理事を任されました。その編集会議は医真菌誌とは異なり、毎回委員が一堂に会して全原稿を校正するという忍耐のいる作業で、それが夜遅くまで続くため、会誌改良について議論する余地はありませんでした。4年後担当副会長になったのを機に、編集委員長

と一献を傾け、マンネリ化した編集方法の刷新を図ることにしました。つまり各委員が担当の原稿のみ校正し、問題点のみ委員会に諮るという方法に変えました。以後、委員会では主に会誌の改良や新企画の検討に時間を割けるようになり、その結果「病院勤務医便り」「原著論文掲載」「なにこれ？へえー」などが誕生しました。同じ頃、印刷会社を変える必要が生じたため、私は瑞穂印刷を推薦しました。選考会で義雄氏とともに息子の克英氏（現社長）も熱弁を振るってくれましたが、残念ながら採用されませんでした。そんな縁があり、本誌創刊の折には瑞穂印刷にお願いしようと心に決めていました。克英氏は父の意志を受け継ぎ、創刊号から毎回編集会議に出席し、貴重な助言を授けてくれます。10年間充実した会報誌を発行できたのは瑞穂印刷社長父子のお陰です。

本誌の仕様・内容・編集手順：創刊にあたっては日臨皮会誌の全面改訂時の経験と知識が大いに役立ちました。加えて、他県の医会誌、市や県の医師会誌、同窓会誌などの各編集担当者から対面あるいは電話で詳細を聴き取り、参考にしました。発刊後、「特集」「あごら」の追加や編集方法の微調整はありましたが、10年間概ね当初の仕様を踏襲しています。

原稿集め：「随筆」「マイホビー」「いい店・好きな店」「クリニック紹介」などは待っていても原稿は届きません。積極的に様々な会に顔を出し、本誌に執筆頂けそうな先生を見つけては猛アタック（本誌2号で北村啓次郎先生に「しつこく付きまとして」と評されました）して、何とか原稿をかき集めました。最近はコロナ禍のため原稿をお願いする機会が激減していますが、編集委員をはじめ自主投稿をしてくださる先生方に助けられています。

特集：2号で「50周年記念」特集を組んでから、毎号特集を組むことになりました。3号の「皮膚科保険診療のアドバイス」はプレッシャーを乗り越え執筆された町野先生の力作で、保険審査委員ではない立場から聖域？に足を踏み入れていただいたお陰で、今でもバイブルとして会員の役に立っています。5号の「病院・医院情報アンケートの解析」はホームページの地域医療連携サイト開設に際し得られたアンケート結果を解析したもので、齋藤先生が詳しくまとめてくれました。6～8号は「紹介患者受け入れ側病院へのアンケート調査」を深く掘り下げて分析したもので、梅本先生と中捨先生が丁寧に解説してくれました。いずれもかなりの時間と労力を要した大作で、会員の病診連携に役立っています。最近では次号でどんな特集を組むかが編集委員会の最重要テーマになっています。

編集委員会：毎年2回開催していますが、この10年間で辞めた委員は1人もいないのは特記すべきことです。和気あいあいとした会で、皆がアイディアを出しあい、より良い会誌づくりに議論が伯仲します（本誌4号の齋藤先生の随筆参照）。毎回その雰囲気を引き出してくれるのは2代にわたる編集委員長の石田先生と齋藤先生です。石田先生は毎号味わい深い随筆や博学の豆知識を多数執筆され、本誌を堅苦しくない、誰もが読みたくなるような会報誌に育ててくれました。また齋藤先生は娯楽ページ「あごら」の新設を提案し、多数の投稿で紙面を賑わせています。

今後も編集委員を始め会員の皆様が更に魅力的な会報誌に育ててくれるものと信じています。



獨協医科大学越谷病院に赴任して

越谷市・獨協医科大学埼玉医療センター
片桐 一元

2010年7月に九州の大分大学から獨協医科大学越谷病院（現、埼玉医療センター）に赴任しました。縁もゆかりもない埼玉での生活でしたが、近隣の先生方や多くの人たちに支えられ、11年間、あっという間でしたが、楽しく過ごすことができました。中でも埼玉県皮膚科医会では大事に扱っていただき、この原稿をお借りして、改めて御礼申し上げます。

赴任した時点では、当科は外来診療のみであり、赴任1ヶ月後に偶然入局してくれた宮崎先生と翌年1月から2人で入院診療を始めるまで、私の苦手な手術や美容の知識の習得などを行いながら、関東近郊の観光に行ったり、のんびり、贅沢に過ごしました。4月から東京医科歯科大学の横関先生のご助力もあり5人体制になったものの、経験の浅い医師ばかりで、週末の学会出張時に10数回電話がかかってくる、外勤の昼休みに植皮後のtie-overを外しに戻ったりと、このような慌ただしい状態が2年くらい、その後もつい最近まで、病棟運営の心配は似たような状況が続きました。幸い、前任地では重症患者ばかり診ていましたので、悪性腫瘍、薬疹、水疱症、膠原病、悪性リンパ腫なども、語弊はありますが、楽しみながら診ることができました。苦手な手術は、整形外科の佐野先生にお手伝い、教えていただき、自分自身も毎週手術をすることで楽しみにもなってきました。しかし、その後、昨年退職した小林講師にすぐに追い越され、さらに、須山先生、横山先生が皮膚外科として赴任してからは全く出番はありません。これらの作業は、私の医師としての元気を10年分くらい取り戻させてくれた気がします。

外来診療では、多数の痒疹患者が受診するため、赴任して2年で110人を超す多形慢性痒疹患者の治療をまとめることができました。前任地でも、面倒な痒疹患者が他の医師から流れて来ることが多く、その経験により私なりの治療方針が固まりかけているところでしたので、通常の診療をそのまままとめることができました。入院治療も含めて、人間、何が幸いするかわかりません。また、稀少疾患に遭遇することも多く、背景人口の多い埼玉県で診療するメリットを強く感じました。

アトピー性皮膚炎と女性ホルモンに関する研究もほそぼそと継続し、多くはありませんが、新しい知見を得ることができました。実は、研究は最も良い気分転換であり、私にとっては欠かすことはできない仕事の1つです。2016年に「治せないアトピー性皮膚炎」をテーマにアトピー性皮膚炎治療研究会を主催したことも印象深く、現在の治療の進歩は想像できませんでした。しかし、この時に、このテーマで議論することは、新しい治療薬を導入すべき患者の目安になったはずであり、無駄ではなかったと思っています。

最後に、何と言っても、良い医局員に恵まれたことが幸運だったと思います。彼らがこれからの埼玉県での皮膚科診療を支えてくれると信じています。

閉院、そして新規開業へ

東京都練馬区・早宮クリニック（旧・くるまじ皮膚科クリニック）

車地 祐子

大学の先輩の杉山悦朗先生から医院を引き継ぎ志木で開業して約23年、埼玉県皮膚科医会や皆様には大変お世話になりました。2021年10月末で、くるまじ皮膚科クリニックを閉院し、2022年から練馬区の自宅で、精神科医の夫とともに皮膚科・心療内科のクリニックを開業することといたしました。

そう考えた理由は以下の通りです。

まず3人の子供達がそれぞれ家を離れ、夫婦2人で暮らすには家が大き過ぎること、川越で一人暮らしをしていた94歳の父が近くに転居してくれ、私たちも生活の場を移せるようになったこと、自宅はスーパーや学校、公園などが近くにあり比較的人通りがあること、志木の医院のある商店街は古く、建物や設備の老朽化が進んでおり、その割に賃料が高いこと、自宅で開業できれば65歳の今からでも自分たちのペースで長く仕事をしていけるかと考えたこと、などです。

ただこの事を2～3年前から友人達に話していましたが、残念ながら「良い考えだね」とは言われず、皆一様に不思議そうな顔をするのです。確かに周りを見ても住んでいた家で開業したという話は聞きません。

実際、医院として建てたのではない普通の住宅を医院にするのはなかなか大変なことです。1階に台所とリビングダイニングルーム、和室と小さい書斎があり、2階に浴室、寝室、子供部屋がある標準的な一戸建ての家です。その1階部分をクリニックに替えようと考えたのです。

家の壁を壊すなどの大きな工事はしたくなかったため、リビングルームの掃き出し窓を出入口とし、その外にウッドデッキを付けました。また外の塀だけは一部壊して広げ、医院の入口としました。室内では1階の中央にあるリビングルームを受付と待合室にし、そこに接しているダイニングキッチンを経由して皮膚科に、和室を洋間にして心療内科に、書斎をカルテやレセコンなどを置く事務スペースにしました。

改造計画中に保健所の指摘で大きな問題となったのは、診察室には、しっかりしたドアをつけ、待合室からは閉鎖されないといけないということでした。そこでリビングとダイニングが繋がっていたのを大工さんに壁を付けてもらい、吊り下げタイプのドアとアコーディオンドアをつけました。またもう1つの問題は、医院と2階のプライベートエリアが、ドアなどで仕切られている必要があるということでした。しかし玄関ホールや階段の前に仕切りのドアは付けられなかったため、天井から厚手のカーテンを2カ所下げ、それぞれにチェーンを二重に付けることで、ようやく許可が出ました。さらに受付カウンターの内側に人が入れないよう境をするように言われ、これは本棚やパソコン台を置くことで許されました。その他、壁紙や照明を替えたり、受付カウンターを含め家具の選択や購入、建物の外に掲示板や看板を設置するなど、様々なことで迷い悩みの連続で大変でした。

2021年末までに、何とか医院としての構造は整いましたが、小さくても新規開業になるので、新しい環境を整えるのがまた大変です。今までの慣れた職員さんも場所が離れたため続けられず、頼りになる近くの薬局もなくなりました。近隣の医療機関や業者さんも含め、今までいかに周りに助けられて仕事をしてきたか、身に染みて感じます。つくづく開業は1人でできないものだと思えます。

まだまだ軌道に乗るまで課題はたくさんありますが、埼玉での開業で経験したことを元に、これからまた周り新しい関係を作りながら、心身の許す限り皮膚科を勉強し仕事を続けられたらと思います。

本当にお世話になり有難うございました。

.....



振り返る、この10年

和光市・独立行政法人国立病院機構 埼玉病院
中捨 克輝

皮膚科医としての10年

父の葬儀の1週間後に受験した専門医試験から2回の更新を経たこの10年。2016年に医局の雑兵から管理職にクラスチェンジし埼玉病院に赴任した。管理職と言っても兵隊であることに変わりはなく、はじめは1人医長で種々の診療の開始から院内の立ち位置の確立、研修施設の認定など初めての作業も多く手探りであった。

埼玉県南西部で有力な病院皮膚科がなかったため、地域で皮膚科の高次医療が受けられず都内などへ通院されていた患者さんが当院の立ち上げにより、地域で診療が受けられるようになったことはデータでもはっきり示されており評価に値すると自負している。病診連携を重視し地域からの信頼を得るべく、近隣の開業医の先生方への挨拶回りという名の営業活動、ご紹介いただいた患者さんの診療結果をつぶさに丁寧にご報告するといった、基幹病院として行うべきことを前職の上司から教え込まれていたものでその経験は大いに役立った。

入院を要する疾患、悪性腫瘍を含む手術、乾癬・アトピーを始めとする難治性皮膚疾患の治療といった診療はもちろんのことだが、いまや埼玉病院皮膚科の特色として挙げられるのが「乳児の血管腫の治療」である。2018年にVbeam2を導入したことで始まったこの診療は今では年間約150-200の新規症例を受け入れ近隣のみならず都内、遠方からも紹介をいただくようになり地域でも随一の経験値を保持している。広報誌第7号の特集記事にもご報告したのでぜひご参照いただきたい。2022年の総会では乳児血管腫の診療について教育講演を担当させていただく予定である。

2016年に1人医長で始まった診療体制も2017年には常勤2人、2021年には3人体制へと増強された。2019年には「ブラックジャックを探せ」という夕刊フジの記事で紹介していただいた。ちなみに夕刊フジによれば毎年数十人のブラックジャックが量産されているうちの1人である。まだまだ課題の多い当院ではあるが、仮に私が定年まで勤めるとするとあと20年。次の10年にはどのような医療情勢があり、何が出来るのかを日々考えて対応していきたいと思っている。

家庭人としての10年

10年前には幼稚園児の長男1人と6歳の犬（ワイヤーダックスフント♂）を有するのみであったわが家も、今では長男は高1となり、小2、年長の男子2人が加わりになぎやかに暮らしている。「飢え死にしない程度にできる」状態だった家事も子供が3人になった今では比率の差はあれ当たり前に分担するようになり、なんなら休日のごはんはすべて私が作っていることもあるぐらいである。家族ぐるみでのライフワークとなった海水魚採集とその飼育も、昨年は幼稚園児がドチザメを、妻と長男がマダコを捕獲するなど着実にスキルアップしている。個人的には昨年採集目標であったサザナミヤッコを捕獲することが出来て脱初心者と言ってもよいのかなと思い始めたが、素潜りや飼育スキルの上達などまだまだ課題が残っている。家庭を得てから永年わが家を見守ってくれていた愛犬は17歳を目前に2022年1月に旅立ってしまい、ペットロスの心境をしみじみと感じながら仕事に家にと忙しく過ごしている。

埼玉県皮膚科医会の10年

埼玉県皮膚科医会といえば埼玉医大総合医療センター在職時の昔（2003-2005年）、1枚会に演題を出させていただいたことがあるのが現在残っている最古のほのかな記憶である。

私が運営に関わらせていただくようになったのは振り返るこの10年の後半であるが、広報誌の編集、皮膚の日の学術講演会、市民公開講座、メールマガジンなど全都道府県をみても活発な活動が行われていると感じる。

皮膚科医会の運営に関わらせていただくようになっての私見だが、特筆すべきは仲会長の精力的なお仕事ぶり、私の観測できる範囲の全てにおいて会長は誰よりも積極的にメールをチェックし、的確な指示をされ時には自ら行動され感嘆する限りである。私も広報委員会に始まり皮膚の日委員会、日臨皮委員会と年々お任せいただくお仕事が増えているような状況ではあるが、どう見ても最も働いていらっしゃるのが仲会長であることは誰の目にも明らかであるので、私も会長に負けないよう、会長のご負担が少しでも減らせるよう精進したいと思っている。仲会長は古希を迎えられたとのこと、体調を崩されることがあってもいつも不死鳥のごとく復活されているため「もしかして複数体存在するのではないか」「もしかして銀河鉄道に乗って機械の体を手に入れたのではないか」という疑惑が（主に私の中に微粒子レベルで）存在しているが、会長のご健勝を心から祈るばかりである。

ここ数年の大きな変化としてはやはりコロナ禍による影響で、毎年浦和で行われていた市民公開講座は2020年からYouTubeを利用したweb開催となり動画作成、アップロードなどの「中の人」の業務を担当させていただいている。動画配信はコロナ禍がなくともいずれ時代の流れとともに取り入れられるべき変化だったのではないかと今では考えている。動画配信の最も難しいところは動画作成そのものではなく、多くの人に見てもらうことである。上手にPR出来ればよいのだが、会員の先生方のご協力をぜひ賜りたいと思っている。

最後に埼玉県皮膚科医会の課題について私見を述べる。上に述べたとおり本会の活動は非常に質の高いものであり、他の都道府県に対しても誇れるものであると感じている。そしてそれは仲会長、副会長の久保和夫先生、町野 哲先生、松本吉郎先生をはじめとする会のコアメンバーの先生方の献身的な活動によるところが大きいという点である。私もその末席で微力ながら助力させていただいているが、出来ることであれば、できるだけ多くの先生方に少しずつでも積極的に関わっていただきたいと思っている。「仕事も忙しいのに面倒なことに巻き込まれたくない」とお考えの先生方もいらっしゃるかも知れない。かく言う自分もそんな考えが頭をよぎらなかつたと言えはウソになるが、一方でさしたる学術的成果も持たず埼玉にやってきた自分が多少なりとも県内の先生方に顔と名前を覚えていただいたのも、埼玉県皮膚科医会に関わらせていただいたからであ

ることは間違いない。今こそ「人こそ力なり」の思想で少しずつでも会員のみなさまと手を取り合って、この会の次の10年が盛り上がっていくことを祈念している。



スポーツについて振り返る

さいたま市緑区・さいたま市立病院
齋藤 京

少し医療から離れてスポーツを振り返ってみました。10年となると想像もしなかった驚きや感動が結構浮かび上がります¹⁾。まあ、最もびっくりしたのはコロナ禍でも東京オリンピックが開催できたこと・それに関する政治的やり取りの段取りの悪さ・それでも何とかになってしまう日本という国の底力でしたけど、、、

1. 2015年9月19日ラグビーWC 34-32で南アフリカに勝利：この試合は海外から見ると前頭13枚目とか十両が横綱に勝つようなものでした²⁾。堂々と34点も取ったところが凄いです。
2. 2013年楽天イーグルス日本一：だって2005年は38勝97敗1分のチームですよ。びっくりです。2012年にエース岩隈がシアトルに移っていてシーズン前の戦力は小粒。でも現役大リーガーを獲得するなどチームは本気を出し、そこに田中と則本が覚醒して見事達成しました³⁾。
3. 2021東京五輪卓球混合ダブルス 水谷&伊藤金メダル：歴史的快挙です！国の総合力では中国と日本は白鵬と幕下や三段目とかの差があるのにです⁴⁾。
4. スキージャンプWC60勝（2021年11月現在）高梨沙羅：2位は30勝です。基本的に高身長の方が有利な競技ですが、彼女は152cmです。凄い。
5. スキージャンプ 葛西紀明49歳 まだ現役：普通無理です。
6. サッカー 三浦知良53歳 まだ現役：異常です。
7. 2021年大リーグでも二刀流で満票MVP 大谷翔平：漫画のようです。
8. 2014、2018五輪フィギュア2連覇 羽生結弦：今風のスマートな顔の彼ですが、怪我を押してでも競技する負けず嫌い根性があります。国内外にライバルがいますが、五輪で負けないうメンタルの強さが日本人離れしていますね。最年少の国民栄誉賞だそうです。
9. 2017年横綱稀勢の里誕生：怪我を押してでも休場しないのは羽生結弦と同様ですが、責任感故で実はやせ我慢だったという対照的な理由でした。勝負弱かった為⁵⁾、7回目の綱取りでようやくの横綱昇進です。諦めない姿は共感を呼び、愛され応援された力士でした。
10. 2021東京五輪水泳 池江璃花子出場：2019年1月に白血病の診断、この時、高校3年生です。医学の進歩にも驚きますが、若くして病と闘う心の強さに頭が下がりました。オリンピックに間に合った事そのものが奇跡で、本番でのびのび泳ぐ姿に感動しました。パリで活躍できるといいですね。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

- 注1) 私、スポーツは見るのもやるのも大好きで、子供のころから今でもスキーを、他中学で卓球、大学でサッカーをしています。よって、選んだものはそれらにかなり偏っています。
- 注2) 私、ステロイド外用の強さを説明するとき、相撲によく例えます。「ストロングストは横綱、デルモベートは特に別格で白鵬とか千代の富士とかの大横綱です。ベリーストロングが大関とか三役、ストロングが前頭とか十両、マイルドが幕下ですかね。」という感じで。
- 注3) 故星野仙一監督にとって選手時代から通じて唯一の日本一です。2018年1月4日没、合掌。
- 注4) 卓球専門の公立学校があるなど、中国は国をあげて強化しています。中国がオリンピックで卓球の金メダルを逃したのは2004アテネの男子シングルス（韓国ユ・スンミンが金）まで遡りますが、その後韓国はマークされ苦勞しています。今後日本も一段と警戒されるでしょう。
- 注5) 通算優勝2回ですが、次点がなんと12回。



日臨皮委員会委員長として

坂戸市・町野皮膚科
町野 哲

日臨皮委員会の10年ということですが、私は2020年に今泉先生から引き継いで務めていますので、まだ2年ほどになります。日臨皮委員になる前、日臨皮委員会は謎でした。日臨皮委員会とは？ご存知ない先生方も多くいらっしゃると思いますので、この場をお借りして少しご紹介させていただきます。

まず簡単にお伝えすると「日本臨床皮膚科医会との窓口」になるかと思います。日本臨床皮膚科医会は、クリニックや中核病院の先生方を中心とした臨床医の会です。全国10ブロックに分かれていて、埼玉県が所属するのは南関東山静ブロックです。他に千葉県、神奈川県、山梨県、静岡県が同ブロックになります。ブロックの運営は4年ごと各県持ち回りになっていて、2020年から埼玉県がその担当になりました。つまり、私が2020年に日臨皮委員会委員長となり、日本臨床皮膚科医会との埼玉県窓口となり、同時にブロック長となりました。

南関東山静ブロックがやっていることは大きく2つあります。まず1つは例年11月23日（祝）に行われている三ブロック合同学術集会の開催です。東京ブロックと北関東信越ブロックと合わせて三ブロックで開催します。残念ながら、昨年、一昨年とコロナの影響で中止となりました。一昨年在埼玉県の担当でしたが、中止により昨年も埼玉県、中止により今年も埼玉県の担当です。演者の先生方、座長の先生方にはお手数をお掛けして申し訳ありませんでした。今年こそ開催されると信じていますので、多くの先生方のご参加をお待ちしています。

もう1つはブロック会報誌の発行です。年に1回、例年7月に発行され、お手元に届いているかと思います。会費振込用紙も同封され、会費管理や先生方の住所録管理も行います。会費や住所録については、坪井るみ子先生にご尽力いただいて、とても助かっています。

さて、日臨皮の学会といえば例年4月に全国各地で開催される日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会です。すぐに活用できる知識が盛りだくさんの学会で、昔なつかしの先生に会えたりもして毎年参加を楽しみにしています。ここで、この10年の学会を振り返ってみたいと思います。

2012年	ホテルニューオータニ博多	津田眞五先生
2013年	ウエスティンナゴヤキャッスル	田中隆義先生
2014年	パシフィコ横浜会議センター	栗原誠一先生
2015年	オホーツク文化・交流センター	川嶋利瑞先生
2016年	岡山コンベンションセンター	佐藤 淳先生
2017年	ANAクラウンプラザホテル神戸	林部一人先生
2018年	仙台国際センター	谷田泰男先生
2019年	松山全日空ホテル	町野 博先生
2020年	アクトシティ浜松	白濱茂穂先生
2021年	帝国ホテル東京	早川道郎先生

あの時の博多がもう10年も前・・・、神戸で美味しいお酒飲んだっけ・・・と、その時に会った方々と共に懐かしい思い出です。繰り返しの多い日々の中で、学会はちょっとしたアクセントを与えてくれます。修学旅行に通じるイメージです。

これを書いている2022年1月現在、コロナ禍は未だ収まっていません。今年中には収束すると信じています。講演会はオンラインの良いところもあるのですが、学会はできれば現地で参加したいと思っています。修学旅行がオンラインはやっぱり寂しいです。

.....



浦和医師会皮膚科泌尿器科医会について

さいたま市緑区・あきもと皮膚科クリニック
秋元 幸子

10年前はどんな会だったのか、この会報の創刊号を読んでみました。10年前は今泉俊資先生が会長でした。その前は久保和夫先生が会長で、久保先生の会長時代に齋藤 京先生がさいたま市立病院に赴任され、私たちの医会に参加してくださる様になりました。最初の会には参加していなかったので、話の流れは定かではありませんが、齋藤先生がお酒やお料理をいただきながら、紹介患者のその後の経過についてスライドを使って説明してくださり、参加した先生はとても感動したと聞いています。こうして、「その後会」が始まりました。それまでの医会は決まった数名の先生が総会、納涼会、忘年会に参加する会だったようですが、私の様な幽霊会員も参加する様になり、会には数十人が集まる様になりました。

その他の活動として、浦和医師会と製薬会社の共催、あるいは浦和医師会単独でその道のエキスパートにご講演をお願いしています。聴講したい旨を講師にお願いし、承諾していただければ、自由に講演会を企画することができます。浦和医師会には学術部という部署があり、職員の方は講師への対応にも慣れていますし、医師会に講堂があるので場所の確保も比較的容易です。少しのやる気があれば、自由に講演を頼めるという、とてもありがたい医会です。人が集まるようになれば納涼会なども盛り上がります。久保前々会長が、「医会は親睦と学術の場であるべき」とおっしゃっていました。新型コロナウイルス感染拡大前まではある程度はそれが実現していたと思われます。

2年前よりコロナ禍となり、状況は一変し、医会の先生に会う機会はほとんどなくなりました。

感染拡大が始まった頃、どの様に感染対策をとればよいのか、どのように診療を続けていけばよいのか、私自身が分からなくなっていました。同じ思いの先生はいるはずと、会員の先生にお願いして「自院のコロナ対応」についてアンケートをとったり、病院勤務の先生方はどのようにしているのか、先述の齋藤先生、国立病院機構埼玉病院の中捨克輝先生に寄稿していただき、会員宛にメールやファックスで紹介しました。どなたかのお役に立てたとしたら幸いです。

現在WEBの学術講演会が盛んに行われています。リモートの便利さを享受する一方で、それだけでは物足りなさがあり、スモールグループの集まりが欲しいと思ってしまいます。まだ先は見えませんが、また流れが変わり、気楽に話の出来る医会に戻ることに、更には若い世代の医師が積極的に参加する医会になることを願ってやみません。



広報委員会委員長として

さいたま市緑区・さいたま市立病院
齋藤 京

広報委員会の歩みは、ほぼ私の埼玉県皮膚科医会との関連期間と一致します。もう10年なんですね。

私がさいたま市立病院に赴任したのは2005年7月です。全く土地勘や周囲の医院との関係性の情報がなく、なにはともあれご挨拶しようと、空き時間が許す範囲で直接周囲の医院に出向いた（多くは飛び込み）ことが思い出されます。そして、複雑な浦和周辺の医療事情を感じ、まずは近隣の医療連携を構築すべく何かできないかと考え、浦和皮膚科泌尿器科医会の飲み会に、半分余興として自前のパソコンを持ち込み症例供覧したのが「その後会」の始まりです（秋元先生の特集投稿を参照ください）。当院の立ち位置が見えるまで時間がかかり、結構頑張った思いがあります。

ようやく浦和近隣との関係構築が一段落した時期に、突然仲 弥先生から「先生、埼玉県皮膚科医会の委員になってよ。広報委員会ができるのでお願いします。とりあえずメーリングリストの作成と管理をよろしく」とご連絡。不精な私は医会の行事も出たり出なかったりの状態だったので、このお話には驚きました。不安もありましたが、さらに広い連携が持てるかな、と前向きに考えお引き受けしました。

仲先生は今でも積極的ですが、その頃は特に意欲的で止まりません。広報委員会に関しては、ホームページ作成、そして会報創刊の号令です。おそらく仲先生の人選だと思のですが、広報委員会委員長に寺木祐一先生、会報編集委員長に石田 卓先生、そしてブレインに瑞穂印刷菅野克英さん（仲先生の特集参照）です。パズルの如き適材適所の陣容で始まっており、ご一緒に作業が出来たのは幸運で、本当に勉強になりました。近年、広報委員会委員長や編集委員長が私になりましたが、先代の行ってきたことを継承し必要あらばアレンジするというスタンスで、力みすぎないように勤めています。

ホームページにしる会報にしる、広報の仕事は「継続は力なり」ではないでしょうか。続くことが格を上げ信憑性を上げるし、続けば自然に「個性的な定番」が生まれ、それが面白さを上乘せし魅力になります。今思えば会報創刊号は手探りで、表紙に埼玉の写真を載せる、特集

を設けるなどのルールはなく、とにかく形になれば上出来として始まりました。でも、表紙の写真は今では会報の顔となり、特集はただの文集になりがちな会報を、貴重な資料でもあるとして価値を高めています。今回の特集はそこそ長期間である10年を振り返るという趣旨ですが、広報活動の視点ではまだまだ10年です。どこまで私に関われるのかわかりませんが、20年、30年と今の充実が続けばと思います。

余談ですが、ホームページは更新が思ったように進んでいません。Webは会報とは違う問題や癖があり、難しいですね。



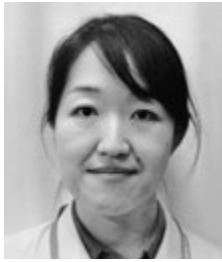
日本皮膚科学会 キャリア支援委員活動について

川口市・済生会川口総合病院
高山かおる

何を振り返ろうかなあ、とつらつらと考えていましたが、そうだ！この話にしようとおもったのが2年前まで務めていた日本皮膚科学会キャリア支援委員の活動です。

皮膚科医は過剰な人数がいるといわれてはいますが、10年前の医局長時代も、部長になった今も、実際には皮膚科医不足であることは私にとっても実に重たい問題です。一方で10年間の進化もみえます。10年前キャリア支援委員は「皮膚科の女性医師を考える会」として活動していました。その時代の総会企画用に自分のつくったスライドをみたら、「女性医師の非常勤から常勤へのハードルをなくすには、皮膚科医という社会的役割であるワークと唯一無二の家庭生活であるライフを天秤にかけるのではなく、状況に応じて“ライフ”が重い時には“ワーク”を軽くして、だけど“ライフ”が軽くなったとき“ワーク”を重くすることはできるのでは？」と呼び掛けておりました。果たして今はどうでしょう。

キャリア支援委員会の仕事は、サマースクールで有能でやる気のある若手をたくさん皮膚科に入局してもらうこと、専門医をとる頃の悩み多き先生方をメンターが支えること、さらにリーダーになっていく人材を発掘し育てることを行っています。これらの取り組みは他の診療科の中でも注目されています。後輩たちをみているとダイバーシティ&インクルージョンといういまどきの働き方を実現し、働きやすくやりがいもある、人それぞれの皮膚科医としての生き方を見つけやすくなったように思います。つまり10年前の私の呼びかけも無駄ではなかったのがわかります。しかし残った問題ということなのか、人材育成はしているものの組織の中堅やリーダーの人手不足は深刻です。キャリア支援で最近行ったアンケートをもとに座談会を行った記事があります（全国勤務状況調査からみる皮膚科の未来 <https://jdacareer.jp/3rd/special03.html>）。ここにも書いてありますが、これからは大学という枠組みを越え、地域で、そして日本皮膚科学会という枠組みで、リーダーの生まれ育つ環境を整えていくことが必要な先の10年だと、私も思います。埼玉県皮膚科医会は地域の皮膚科診療のレベルを守って、押し上げる大切な活動を行っていますが、その中でもリーダー育成を考えたプログラムなどあるといいのかもしれないね。



振り返る、この10年

蕨・戸田地区・多恵皮膚科
井上 多恵

ちょうど2番目の長男が去年で10歳になりました。東日本大震災の渦中に産まれた息子、そこからは、仕事もプライベートも大波乱で、ちょうど不惑の40代でしたが惑いまくりの10年でした。離婚もしましたし、臨床皮膚外科学会の会頭を勤めさせていただき（その節は、埼玉県皮膚科医会の先生方に大変お世話になり、誠に有り難うございました。）、生物学的製剤の導入から乾癬患者会の方々と交流を持つようになり、社会や異業種の方々との関わりも増えた10年でした。さらにコロナ禍でnew normalの生活に変わり、リモートでできるようになったこと、叶わないことも増えました。人と人との繋がりを大切にしながら、これからの10年何が起こるのか、またそわそわしている小心者の私です。



2019年の東京タワーでの乾癬啓

.....



約10年を振り返って

春日部市・春日部ヒフ科医院
矢島 純

仲先生が2010年に埼玉県皮膚科医会の会長になられ、各種委員会、委員長、委員が漸次増設され、それまではどちらかというと形式的であったシステムが、会長を中心に内容面でも活発化してきたという印象を受けます。

会員数も表のように漸次増え、特に2012年以降、女性会員の増加は顕著です。

表. 埼玉県皮膚科医会 会員数の変遷（＊2022年はデータベースより）

名簿発行日	男性	女性	会員数
2000年（平成12年）11月	197	75	272
2003年（平成15年）3月	179	65	244
2004年（平成16年）12月	184	73	257
2006年（平成18年）12月	179	73	252
2010年（平成22年）9月	170	77	247
2012年（平成24年）9月	175	86	261
2014年（平成26年）9月	179	90	269
2016年（平成28年）9月	192	112	304
2018年（平成30年）9月	203	124	327
2020年（令和2年）9月	197	132	329
2022年（令和4年）2月	196	126	322

参考：『埼玉県皮膚科医会会員名簿』より医師会の田中氏がカウントして下さいました。

仲会長就任以前、委員会は、①“学術委員会”、②“会則検討委員会”、③“健保委員会”、④“地域医療委員会”、⑤“日臨皮委員会”、⑥“広報委員会”の6つでしたが、会長就任の年に、皮膚科医同士の親睦目的で、⑦“会員親睦委員会”が増設され、さらに、地域の方々の皮膚疾患に対する啓蒙と地域住民との交流ということで、これも会長就任の2010年に⑧“皮膚の日委員会”が組織されました。

ここでちょっと私の感想を述べます。2010年の春か夏頃だったと思いますが、会長から私は「来年（2011年）から“皮膚の日イベント”を行いたいと思うがどうだろうか」と相談された時、「出来るなら今年から始めたらどうでしょう。出来る限りお手伝いします」と応え、初回の委員長を引き受けました。実際に行ってみると準備段階からとても大変で、仲会長から細かい指示を受けながら1ステップが終わると2ステップというように段階的に仲先生の水面下での指導を受け、徹夜に近い状態で一生懸命に行いましたが、実際に“皮膚の日”行事が行われた当日、人の扱いに不慣れで躊躇していた私に代わって、MRの方などを手際よく采配して下さいったのが今まで委員長を務めて下さいました久保先生で、とても助けられました。その時に自分の無能さを嫌という程自覚したと同時に、仲会長の即断実行の姿勢には頭が下がりました。

2015年には、④の“地域医療委員会”の名称が“地域医療学校保健委員会”と改名され、さらに同年⑨“在宅医療委員会”が、2016年には女性会員の増加に伴い、⑩“女性会員活発化委員会”が増設され、現在まで10の委員会が続いています。

その頃の出来事としては、2011年3月11日には東日本大震災、2012年5月22日にはスカイツリー（634m）のオープンなどがありました。2013年に“会報”の創刊号が発行され、それまで無かった会報の出現で、主たる委員会や各地区の活動内容が示されました。会報は今年で10年目を迎えますが、この経緯は“会報誌黎明期から10号までの追想”で、仲 弥先生ご自身が熱き思いを詳細に語っておられます。編集委員会では、齋藤先生が石田先生のあとを受けて、より良い会誌づくりにご尽力されています。

2020年2月以降、漸次新型コロナウイルス感染症が増加し、同年以降、“皮膚の日イベント”は、YouTubeを利用したweb開催による動画配信となりましたが、中捨先生の大変なご尽力がなければ配信は困難だったと思います。



想定外の10年間

川越市・埼玉医科大学総合医療センター
寺木 祐一

振り返れば、今年で会報も早くも10年目を迎える。時の経つのは、いつも早いものだ。私は、初代広報委員長を仰せつかったが、実際には仲先生におんぶにだっこ状態であった。第1号を作り上げた時から、ほぼ完成の域に達していたと思われるのは、やはり仲先生によるところが大きい。仲先生にとっては想定内であったのだろう。

さて、この10年を振り返れば、実に様々な事が起こった。そのスタートは、正確には11年前になるが、2011年の3.11東日本大震災であろう。地震にも驚いたが、もっと驚いたのがあの津波である。日本があのような巨大な津波に襲われるなんて、殆どの人々にはありえないと思っていた。SNS（スマホなど）の進化により、リアルタイムに見てしまったが、その映像は完全に映画の世界を超えていた。その頃から想定外という言葉が流行った。多くの犠牲者が出たが、世間では想定外なんて言っているからダメなんだと、批判した人もいた。しかし、殆ど全ての人にとっては、まさに想定外の出来事であったと思われる。そして、福島原発事故。日本の原発は、関東大震災級の地震が来ても問題ないと言われていたはずだが、最も簡単にやられてしまった。この3.11東日本大震災と原発事故は、多くの人々の心に何らかの傷を残したと思われる。その後も、日本は毎年のように、大地震や100年に1度と言われる想定外の水害に襲われている。これだけ想定外が続くと、想定外も日常的なものになってくる。

兎に角、この10年は、自然災害に関してはまさに想定外の10年であったとも言えるが、その締め括りはご存じコロナ感染症であろう。今我々はまさにコロナ禍の真只中にいるが、コロナにより、随分と生活様式や人との関わり方も様変わりしてしまったように思える。中学や高校などに入学した時から卒業するまで、コロナ禍の生活を強いられる、なんだかわからないうちに卒業してゆくようなものであろう。かわいそうである。また地域の結びつきや職場などのcommunicationも薄くなり、多く人々の生活を変えた。私は昭和30年代の生まれであるが、生まれてからこの半世紀は、自然はそれほど大きな牙を我々に向けなかった。良き時代であったのかもしれない。想定外の締め、と思ったら、なんとロシアのウクライナ侵攻である。ここまでとは、当事者も想定外であったと思われる。人間の愚かさは、自然災害よりたちが悪いことがわかる。いつの時代にも起こりえるこのような世の中の理不尽さにどうすることもできず、心が痛むばかりである。

さて、この10年間に想定外の出来事は、自分自身にも降りかかった。自分のことを書くのはどうかと思ったが、自分の記録は何もないので、この場を借りて書かせて頂くことにした。私はほぼ健康でほとほと体力もあり、あと20年は現役で働けると、勝手に確信していた。しかしながら、この3年程前より、とうとう病に陥ってしまった。それも全く考えてもいなかった、パーキンソン病（非典型的症状のため、まだ周辺疾患の可能性も否定できないようだが、実は周辺疾患の方が予後悪いのである）を患い、昨年末には脳梗塞も経験した（いずれ年を取れば、一回くらいはしょうがないと思ってはいたが、この若さでなったこともまさに想定外であった）。私は自分の健康にはある程度気をつけていたつもりだ。外食中心だが、なるべくバランスよく食べることを心がけ、運動なども、サボりがちになるものの、ジムに30歳から定期的に通っていた。病気はいずれなるのが当たり前だが、まさか、自分が脳神経疾患になるとは、まさに想定外である。私の場合、典型例とは異なり、パーキンソン病の薬も殆ど効いていない。症状は

嚥下障害がメインで、兎に角涎（よだれ）が出てしょうがないのである。家でも外でもマスクにティッシュを挟んでいる。コロナだから誰も変に思わないけれど。ここはコロナに感謝である。どの名医に診てもらっても、典型的なパーキンソン病ではないと言う。クリネックスのティッシュペーパーを1日2箱は使うので、すぐに補充しなければならず、大変だ。口に入れた食べ物は舌の上で動こうとしないため、美味しい食事もお酒も思うように食べられず、吞めず、私の人生の半分の楽しみは消えてしまった。昨年の夏は10kg体重が減った。ちょうどその頃受けた職場の健康診断では、はじめてオールAとなったのだが、何とも皮肉な結果だ。また、最近では家の中でよく転ぶようになり、気がつけば、新調したメガネのフレームがたて続けに壊れショックを受ける。顔を床にダイレクトにぶつけた時は、あまりの痛さに10秒も蹲った。また、情けないが、うまく喋れなくなってきたし、字も書けなくなってきた。嚥下に関しては、自分で偶然見つけたある薬が効いて、しばらくは良かったのだが、徐々に効果が減弱してきており、今や2時間に1回飲まないと、下顎から首の筋肉が締め付けられるように固縮を引き起こし、嚥下できなくなり、薬を飲むのも大変になってくる。夜早く寝ても、数時間で同様の症状が現れ苦しくなり、薬を飲むため起きざるを得ない。現在は1日いろんな薬を40錠近く内服している。薬も飽きたが、とにかくさっさと飲めず、苦勞している（図1）。生老病の次は死であるが、最近、親や銀行に乘せられて遺言状も作ったので、いつ死んでも良いのだが、情けないことに自分に死ぬ勇氣はまだない。生きていれば、たまには、何かしら、少しは良いこともあるものだ、ということ信じつつ、密かに、自分に想定外なことが起これば、などと虫のいいことを考えているが、まあ無駄であろう。この状態で、残された時間にできることはそれ程多くはないが、診療は続け、またわずかな論文も書きたい。最近、オレはどのように死ぬのだろうか考えることもある。しかし、最後はせめて苦しまないであの世に行きたい。このように、人生は想定外の連続であるとも言える、だから面白いのであろう。



図1 流しの上に並んだ薬。
水をいつ吐き出してもいいように流しの前で薬を飲むようにしています。



第51回日本皮膚免疫アレルギー学会 総会学術大会を開催して

所沢市・防衛医科大学校

佐藤 貴浩

令和3年11月26日から28日にかけて第51回日本皮膚免疫アレルギー学会を開催させていただきました。本会は日本皮膚アレルギー学会と日本接触皮膚炎学会が平成19年に合併し、さらに皮膚脈管膠原病研究会も取り込んで、平成30年より日本皮膚免疫アレルギー学会なる名称となってこれまで発展してきた組織です。

今年のテーマは「Active immunodermatoallergy: アグレッシブな皮膚アレルギー診療を目指して」としました。面白い症例、不思議な所見、当たり前とは思っていたもののどうしてなのか答えられない現象などを、単に眺めているだけでなくもう一步踏み込んで考え、新たな情報発信をめざそうという思いを込めました。

基調講演として西岡 清先生に湿疹の語源から接触皮膚炎、そしてアトピー性皮膚炎にいたる歴史を解説いただきました。また特別講演ではスイスベルン大学のSimon先生に好酸球に関する最新の知見を、そして国際医療福祉大学大学院長の三浦総一郎先生に腸管免疫と皮膚免疫の接点についてのご講演をいただきました。また招待講演ではCOVID-19のサイトカインストーム（北海道大学遺伝子制御研究所 村上正晃先生）、原発性免疫不全症の皮膚症状（防衛医科大学校小児科 野々山恵章先生）、アレルギー発症と母乳や乳児離乳食との関連（国立成育医療センター 福家辰樹先生）、そして血管炎の最新治療（香川大学膠原病リウマチ内科 土橋浩章先生）などについて高名な先生方にお話をいただきました。その他たくさんのシンポジストの方々に、接触皮膚炎、アナフィラキシー、血管炎・血管障害、膠原病、高齢者の紅皮症などについて日常の疑問に答える貴重な情報を提供いただきました。

本学会の会長を仰せつかったのは約4年前まで遡ります。本会を主催するには当教室はあまりにも小さな組織であり、また防衛省管理下での様々な制約も予測されましたので、お引き受けする自信は当初全くありませんでした。本会は規定上、9月から12月の間に開催する必要があります。秋の学会開催では台風の来襲が最も大きな懸案事項になります。その点では11月末の開催は安全だろうと高を括くっていたのですが、期せずして新型コロナウイルス蔓延にあたってしまったわけです。それでもコロナ発生当初は2021年の終わりにはさすがに収束しているだろうと気楽に思っていました。しかし年が明けると感染状況はむしろ悪化、感染の波は予測が困難、AI予測ではワクチン接種が進んでも11月には大きな波が来るであろうということでした。現地開催か、完全WEBかハイブリッド開催か。。。宴会、レセプションはどうする？開催形式によりプログラム構成、会場配置、使用する部屋数や大きさもそれなりに変えないといけません。そして、そもそも防衛省に属する組織がコロナ感染の真っ最中に、多くの人が集まる会など開催してよいのか。感染クラスターが起こればどんな処分があるのか、など不安要素が絶えません。他の学会の動向も気になりました。そんな中、京都で開催予定のJSIDが早々と完全WEB開催を決定します。それでも判断をギリギリまで保留し、私たちがハイブリッド開催に腹を決めたのは9月の

終わり頃でした。その頃の感染者数の減少も後押ししました。実は判断に迷っていた理由の1つにハイブリッド開催の経費があります。今回初めて知りましたが、ハイブリッドの設備や人件費は招宴会、レセプション経費が飛んでしまうほどの高額になります。現地参加者数は少ないので、展示を控える企業は非常に多く予算収入は思うように伸びません。会場仕様変更でのキャンセル料はどうなるのか、赤字決算が頭をよぎります。そんな中で、埼玉皮膚科医会の皆様、治療学会の皆様からご寄付を頂けましたことは大変ありがたく、心強い支えになりました。ふたを開けてみますと、当日は天気に恵まれ、おちついていていたコロナ感染状況も後押ししたのか、予想以上に多くの方に現地参加いただきました。むしろ会場内は“密過ぎるのでは？”と心配になるほどでした。

今回の学会開催に際してご支援を賜り、仲会長をはじめ埼玉県皮膚科医会の皆様にあらためて厚く御礼申し上げます。



図1：学会会場である京王プラザホテル入り口



図2：学会ポスター。
秩父長瀬のイメージとブルーインパルス



図3：会場内の様子



肉を食するということ

さいたま市見沼区・いしだ皮フ科

石田 卓

フレンチなどで仔牛の料理が出されることがあります。僅か6ヶ月の命がプレートに供されるのです。鶏は60日、豚は6ヶ月、牛は通常2〜3年で食に供されます。まさに手を合わせて「頂きます。」とは命を頂くことなのだと思われ、身につままれます。仔牛は、ふくよかに育てるため、狭い所に閉じ込められ、自由にさせられず、生涯を全うすることなく、屠られるのです。あまりにも短い命、何のための生なのかと擬人化するのも何ですが、あわれみの感情が起き、感傷的になってしまいます。スーパーでみるパックされた固形物でなく、自ら育て、生前の姿をみ、屠り、処理した内蔵と筋肉の塊を目のあたりにしていたら果たして食が進むのか考えてしまいます。

一方、この動物を憐れむという感情を抱くということには負の側面があります。家畜を殺す行為を残酷で穢れたものとして、屠畜に携わる人、皮革を扱う人に対して差別を産んできたという歴史があるからです。屠畜場が民衆の目につかないところにあるのも、穢れを避けるという風習からきていると思います。動物にできるだけ苦痛を与えない環境を与えるというアニマルウェルフェアが提唱される昨今ですが、牧畜に携わる人、屠畜に携わる人、皮革を扱う人に対して感謝の気持ちをなおざりにして、肉を食することしかない我々が、安易に叫ぶことは思慮に欠ける行為だと思います。動物供養という言葉もしかりです。反捕鯨運動をしているシーシェパードという団体の活動をみて感じたことですが、動物を愛することはすばらしいことですが、人に対して暴力的な態度をとる様になったら本末転倒な気がします。「四つ足なら机以外何でも食べる」と隣国の文化を揶揄するのも、目くそ鼻くそを笑うという感を否めません。

動物を故意に殺してはならないということを仏教では殺生戒といいます。この話に触れます。日本人が、家畜を育て、食べる様になったのは西洋文化の流入した明治以降ですが、それまでは、仏教の殺生戒の影響が強かったからだといわれます。人間は死んだら他の生物に生まれ変わるという輪廻転生、自然界にあるすべての生き物には草花に至るまで仏様の心が通っているという山川草木悉皆成仏という言葉がありますが、生物の命を大切にする殺生戒の意義が頷ける気がします。この殺生戒といっても、細菌、植物、昆虫から魚類、哺乳類に至るまでのどこで分けるのか考えてしまいます。仏教と輪廻思想を一にするジャイナ教は最たるものです。昆虫は勿論、植物の球根さえ食するのは禁忌という厳しいもので、ジャイナ教徒は、虫を踏まぬよう歩行にも気を遣い、農業に従事することも避けます。前述したシーシェパードですが、牛や豚を食しながら、鯨やイルカなどは生物として知能が高いから殺してはいけないというのはどうでしょうか。生存権を知能で分けるというのは、ナチスの優生思想が彷彿されてしまいます。動物愛護主義の立場から菜食主義者になる人が多いのですが、ビーガンともなれば、乳製品、卵を含めた動物性タンパク質は一切摂取しません。

殺生戒を厳密に守る人、菜食主義者がいるとはいえ、人類の進化、生存にとって肉食は不可欠だった様です。ヒトは森を出てサバンナで他の動物を食べる様になった結果、タンパク質や脂質などの栄養分が豊富に摂取できるようになり、脳容量が格段に大きくなり、知能を増すことができる様になったといわれます。ヒトは9種類の必須アミノ酸は合成できませんが、他の生物から

これらを摂取することにより、代謝的な負担を軽減でき、このことが、生存にはむしろ有利に働いています。最近、エネルギー源として糖質よりもケトン体の有用性が注目されていますが、供給源として肉食が重要で、森を出て、肉を食するようになり、雑食をするようになった結果、今の人類があるといわれます。

現在、肉食をしない菜食主義者が増えています。菜食というというと筋骨隆々、強靱な肉体というイメージは思い浮かびませんが、意外やテニス界に君臨するジョコビッチは乳製品を含めた動物性タンパク質を一切摂取しないビーガンです。ビーナス・ウィリアムスもそうですが、ビーガンのアスリートは少なくありません。ジョコビッチをみれば分かります、菜食が肉体の維持のみならず、より良いパフォーマンスにつながっていることは驚きです。人類の進化に寄与した肉食の話と矛盾するような話ですが、現代における食糧事情は過去とは比べものにならないくらい良いということと、栄養学の発達を相まって、肉に頼らなくても豆類などからバランス良くタンパク質がとれることが可能にしているからだと思います。しかし、菜食で栄養が満たされたとしても、グルタミン酸やイノシン酸といった旨み成分がたくさん含まれる肉や魚やチーズがないというのはどうでしょうか。味覚の面で満たされない気がします。酒があつたらなおさらという感です。味覚を堪能するという点では、菜食のみでは物足りない気がします。

環境破壊という観点からも肉食が注目されています。例えば牛肉1kg作るには何と2万リットルの水、11kgの穀物を必要とするといわれます。牛の吐き出すゲップに1日160~320リットルのメタンガスが含まれ、地球温暖化の要因ともいわれます。牧場の開発には森林破壊を伴います。将来、地球環境保護のみならず、動物に苦痛を与えないアニマルウェルフェアの観点からも、家畜に変わり、培養肉や昆虫で動物性タンパク質が代替され、大豆などの代用肉による菜食が普及していく可能性が高いと思います。

肉食を考えるだけで、宗教、哲学、社会学、医学、人間の進化、環境問題等様々な問題が提起され、とりとめのない文章になってしまいました。「人間は自然の恵みを享受する上で、生物を殺すという行為は不可避」と東大の農学部の方がおっしゃっていましたが、けだし名言です。肉食という人間の原罪ともいえる宿命を意識して生きることは大切なことだと思います。

(大宮医師会報 令和4年2月号より転載)

豆知識

ペニシリン-セフェム系交叉反応の頻度

ヘリコバクターピロリ感染症の除菌治療によりペニシリンアレルギーの人が増えています。ペニシリンアレルギーの人に「セフェム系との交叉反応があるからセフェム系の使用は避けなさい」と安易に指導するのは疑問だと思います。その頻度はセフェム第1世代で5~16%、セフェム第2世代で10%、セフェム第3世代で2~3%です。薬疹などのアレルギーが重傷であればセフェムを避けるべきですが、一般的にセフェム第3世代では2~3%ですので感染症のリスクを勘案すればセフェム系の使用を避けることを強調すべきでないと思います。



ベトナム人の駆け込み寺

所沢市・おうえんポリクリニック

並里まさ子

昨年末に、ベトナム寺院を訪問しました。所沢から高速に乗って本庄児玉で降りて、田園風景の中を30分ほど小雪の舞う寒空の中を走ると、小高い丘の上に「大恩寺」が見えてきました。遠方に赤城山が見えます。さっぱりと整理された本堂を経て事務所の様なところに通されると、何人もの若い人達が忙しく働いていました。お正月の準備です。軒先に、ハンドボールほどの大きさの、葉っぱで包んだ塊がたくさんぶら下がっています。ベトナムのお正月に食べる餅米で作った「ちまき」と説明されました。帰りに1ついただいてきました。近隣の農家の方々との交流もあり、休耕地を借りて、色々な野菜を作っているそうです。



休耕地を借りて野菜の収穫 HPより転載

住職のティック・タム・チーさんにお話を伺いました。クリッとした大きい眼で、丸顔の可愛いらしい尼さんです。2001年日本の大正大学に留学し、修士課程を経て国際仏教大学院大学で博士課程を終了しておられます。きれいな日本語で、かつ見事な筆遣いに驚きました。

2011年東日本大震災が起きたとき、チーさんは、在日ベトナム大使館と連絡を取りつつ、東北在住のベトナム人避難者を保護しましたが、これがきっかけとなってその後も困窮する在日ベトナム人の生活支援を続けてきました。2014年設立の、「在日ベトナム仏教信者会」の会長です。

外国人技能実習制度によって日本で働く諸外国の実習生は、昨年6月時点で約35万人、そのうちベトナム人は約20万人との新聞記事をみましたが、あるいはもっと多いのかも知れません。親切に対応されている実習生もいれば、劣悪な環境下で過酷な労働を強いられている実習生もいるようです。そこに世界的な新型コロナウイルスの蔓延という事態が起きて、実習生達は職場を失いさらに追い詰められました。2020年～2021年の間に、100人ほどの技能実習生が日本で亡くなっていると聞きました。死因は、事故、自殺、事件、熱中症のほか、心不全や突然死、「不詳」の死亡診断書もあるそうですが、「過労死」の診断書はありません。実習生の多くは20～30代、心不全や突然死の可能性は少ないはずです。

大恩寺は、実習生の駆け込み寺として活動しています。まずは、食べることと寝る場所を提供し、様々な相談に乗っています。医療に関する相談、心理的に追い詰められた人達に対するカウンセリングの他、亡くなった人のお葬式も行っています。お寺には、日本で亡くなったベトナム人の位牌がたくさん並んでいました。チーさんは、空港まで遺骨に付き添って本国に送り届けています。一方、この本庄のシェルターまでたどり着けない人達も多いはずです。そこで東京の足立区に「東京大恩寺」を設立する計画が進んでいます。

少し調べてみますと、名古屋、新潟、関西、九州などの各地でこれらの実習生を支援している

個人の方がおられますし、小さな組織もあるようです。政策としての支援が極めて不十分な現状で、今、手を差し伸べる事の大切さを実感しました。

私どものクリニックにも、何人かのベトナム人が受診していますが、大半は実習生です。諸外国出身の人達の中で、ベトナムから来た人達の日本語習得能は、断然優れているように思います。アクセント、イントネーションがとても自然で、日常会話の中でほとんど違和感がありません。大恩寺で会った女性は、日本語検定試験で2級を取得されているとのこと、1級取得の方もいるそうです。因みに私は、1級取得は、ムリです。日本では、今後ますます外国人の労働力が必要となってくるはずです。慣れない異国で頑張っている人達と、健全な関係を発展させていきたいものです。



ティック・タム・チーさん（大恩寺住職）
HPより転載



大恩寺の本堂にて（左から2人目がチーさん）訪問時に撮影

随筆



若い皆さんに明るい未来を….

飯能市・本町診療所
佐瀬くらら

繰り言のように、できることが減ってできないことが増えた、と嘆き続けています。

昨年まで車の運転をしていましたが、88歳になったのを機に免許更新をやめました。行動範囲が狭くなって不便です。新型コロナがらみで、集会に出席することも激減し、外出先はほぼ徒歩範囲、近所のコンビニ、飯能駅地下のスーパーマーケット、お菓子屋さんなど。ほかには郵便局、銀行くらいです。本屋も好きだったのですが本屋そのものが減り、読む力も衰えたのであまり行かなくなりました。東飯能駅の上にある百貨店の中の本屋さんに本を注文しようとしたら、店員さんの答えがあらうことか「アマゾンに頼むほうが早く手に入るかも…」確かにそうですね。

そのような毎日のなかで、「楽しいこと探し」をしています。弟妹、姪たち、親しい女友達とメール交換をするのですが、話題は花が咲いた、食べたものが美味しかった、などごく日常的事。

写真を添付して、花の名前を覚えてもらうこともあります。秋に、青空に映える丈の高いピンクの花がきれいだったので、聞いたら「皇帝ダリア」でした。春が近くなり、そろそろ蠟梅が咲くのを楽しみに待っています。

本町診療所には伊崎誠一名誉教授、佐藤政子先生、麻生悠子先生がいらっしゃるのですが、出番が少なくなりましたが、診療もほんの少し続けています。皮膚科の雑誌を眺めていると、乾癬やアトピー性皮膚炎の新しい薬、ナントカマブとかナントカニブの情報がいっぱいですが、新しい高価な薬を必要とするほど重症と思われる患者さんはあまり来院しませんし、そのような薬を使わない基本的、古典的な治療はそれなりに必要と思われる。皮膚科処置の指導やスキンケアの具体的説明もおろそかにできないことでしょう。

老化とは残酷なものだと思いながら、受け入れて暮らしています。今の私にできるのは、待つことと祈ることだけかもしれません。新型コロナウイルス感染症が早く終息することを待ち、若い方々に明るい未来が訪れるよう、祈っております。

随 筆



第12回日本皮膚科心身医学会を開催して

越谷市・獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科

片桐 一元

2022年1月15日、16日にさいたま市ソニックシティで、「皮膚科心身医学のスペシャリストから学ぶ」をテーマとして、本学会では初めてとなる2日制の学会を開催いたしました。オミクロン株による感染が急拡大する中、現地に約50人、webで70人を超える参加者があり、合計142人（有料122人）にご参加いただきました。埼玉県皮膚科医会、埼玉県皮膚科治療学会より補助金をいただき、決算はまだですが、無事に学会を終えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。

私はアトピー性皮膚炎の診療を通じて、心身医学的、「もどき」の方が近いのですが、対応を迫られることも多く、2017年に本会に入会させていただきました。諸先生方の講演や一般演題を見聞きして、なんとか診療に活かそうと思うのですが、なかなか実践することは難しく、今回は、そのギャップを少しでも埋めたいと考え、自分が聞きたい、教えてもらいたい内容でプログラムを構成させていただきました。終わってみると、達人の先生方との違いをさらに大きく感じ、目的まで道のりが長いことを痛感しました。その一方で、たつぷりと、じっくりと皮膚科心身医学に接することができたので、今までより、少しだけ、体の中にそのエッセンスが沁み込んだ気がします。本稿では、スペースの制約もありますが、学会の内容をご紹介しますと思います。

初日、「発達障害への対応：皮膚科医にできること」：信州大学こどものこころの発達医学教室の本田秀夫先生の御講演から始まりました。発達障害では、その内面を考えすぎず、苦手な部分を補助する、その際、「あいまい」は苦手なので、わかりやすく、イラストなど用いると有効である。感覚過敏も特徴で、光、白い色などに過剰に反応する：外来でも似たようなことがある気がしま

した。潜在的な患者も含めるとかなりの割合で発達障害がある。講演を聞きながら、べとつきが気になりすぎて軟膏は外用できないが、クリームなら外用できる、これでうまくいくアトピー性皮膚炎の患者は、感覚過敏があるのではないかと考えました。次は、細谷律子先生が「小児での皮膚科心身医学」について講演され、家族の絵や見取り図による心理アセスメントに始まり、種々の心身医学的アプローチを用いて、さらには臨床心理士と協働し、発達障害に具体策を実践されていることなどを紹介されました。患児が成人してからも、クリニックを訪れ、その際の笑顔の写真を治療からの流れでみると、映画でも見ているような気がしました。午後は、心身医学の基礎知識として、上田英一郎先生に用語が整理できない私の悩みを解消していただきたく「心身医学用語の解説」、上出良一先生には「皮膚科心身医学事始め」をご講演いただきました。傾聴的問診から、問題となっているターゲットを見出し、さらに看護師から診察室外でfollowしてもらうことで、的確に対応できやすくなる：自分に近いやり方であり、目指したいと思いながら聴き入っていました。次は、「ブリーフセラピー」について、清水良輔先生に御講演いただきました。簡易精神療法、認知行動療法が原因に立脚する、患者より知識の豊富な立場が上の医師による治療であり、ブリーフセラピーでは主体性が患者に移る、解決志向のアプローチ、否定的な側面は逆説的リフレーミング、肯定的な面はコンプリメント、さらに外在化、ナラティブセラピーなどの有効性が示されました。すぐにできるかというのと、難しいのですが、その意図は理解したいといつも思います。一般演題では、心因性と思われた疥癬、寄生虫妄想、自己炎症性疾患を疑われた適応障害、皮膚むしり症状が出題されました。4題中2題が自治医大さいたま医療センターからであり、この学会で一般演題を出すことの難しさを痛感している自分としては、日頃からの取り組みに驚くばかりです。

2日目は、皮膚科心身医学を身近に感じてもらいたく、「5分で使う皮膚科心身医学の技」として4つ教育講演をしていただきました。堀仁子先生「傾聴のコツ」：聞き出すスキル、問診は患者と医療者のギャップ、コーチングでは答えはplayerが持っている、羽白誠先生「皮膚科における向精神薬」：抗うつ薬などの24歳以下での使用は自殺念慮のリスクが高くなる、眠気は抗ヒスタミン薬と同じで、抗不安薬とは異なる、檜垣祐子先生「行動学的アプローチ」：治療をしている患者は、何か方法はないかと思っている、スクラッチ日記で掻き方を見抜き行動修正＋コミュニケーション、山北高志先生：講演を聞きながら実践しても上肢が重くなり温かくなる「自律訓練法」と元に戻す消去運動。5分では少し足りないかもしれませんが、皮膚科心身医学の本質を教えてくださいました。特別講演では、当院のこころの診療科の井原裕先生に「生活習慣医の観点からみたアトピー性皮膚炎」とのテーマで、古代人からの進化論の話から、主として睡眠の重要性（短い昼寝は取ってよい）について、ご講演いただきました。薬を使わない精神科医として有名な先生ですので、会員の先生方もご講演を楽しみにしていました。最後は、脱毛症と心身医学の教育講演として、植木理恵先生に「トリコチロマニアの長期予後、成人例、アトピー性皮膚炎合併例を含めて」：かゆいと訴える患者も多い、抜くと気持ち良い、擦る患者も多い、齊藤典充先生には「円形脱毛症患者の心のケアについて」：患者会活動についてご講演いただきました。治せない患者が多い中、その苦痛は自分の想像を超えているだろうと思いつつ、できないことがないので、このような活動をされる先生のお話を伺い、できることをする、と意を新たにしました。

スポンサードセミナーも関連する演題を準備していただき、皮膚科心身医学に浸りきった2日間を過ごしました。私だけでなく、ご参加いただいた先生方が、新たな一步を刻むきっかけになれば何よりです。自分の取ったメモを頼りに本稿を作成しましたので、内容に誤りがある可能性もありますがご容赦いただきますようお願い申し上げます。



皮膚科動物クイズ

さいたま市見沼区・いしだ皮フ科

石田 卓

病名、皮疹および病態の特徴を表す言葉、ダーモスコピー及び組織像の所見の中に虫から哺乳類に至る生物名が含まれていますが、どのような病名か考えて下さい。(回答は次頁)

Question			
①	tadpole-like apperance	⑳	bird like face
②	honeycomb-like pattern	㉑	traumatic anserine folliculosis
③	herringbone pattern	㉒	Leopard syndrome
④	chicken-wire apperance	㉓	ophiasis
⑤	moth-eaten sign/ border	㉔	myrmecia
⑥	moth-eaten alopecia	㉕	microsporum canis infection
⑦	frogspawn-like appearance	㉖	ranula
⑧	racoen eyes	㉗	ugly duckling sign
⑨	medusa's head (caput medusae)	㉘	beaty and beast sign
⑩	ictyosisis hystrix	㉙	shagreen patch
⑪	eel-like nucleus	⑳	thrush
⑫	elephant feet-like appearance	㉑	ephelide-like macules
⑬	stag-horn-like (antler-like) configuration	㉒	Wolf's isotopic responce
⑭	bird's eye cell	㉓	chicken pox
⑮	buffalo hump	㉔	fish scale-like pattern
⑯	butterfly sign	㉕	chrysalis structure
⑰	leonine facies	㉖	starfish lesion
⑱	pork-cat syndrome	㉗	rupia
㉚	bird-egg syndrome		

Answer		
①	汗管腫 [tadpole-like apperance]	囊腫状に拡張した汗管がオタマジャクシ状に見える組織像。
②	隆起性皮膚線維肉腫 皮膚びまん型神経線維腫 Kaposi肉腫など [honeycomb-like pattern]	腫瘍細胞が脂肪織に浸潤すると脂肪細胞が蜂の巣状に残存してみえる。
③	線維肉腫、平滑筋肉腫、悪性末梢神経鞘腫瘍、滑膜肉腫など [herringbone pattern]	腫瘍の束状構造が鋭角に交わるためherringbone（ニシンの骨格）、矢羽根に似た杉綾模様を呈する組織像。
④	粘液型脂肪腫 [chicken-wire apperance]	腔の狭い血管が分枝して鶏舎の六角形の金網に見える組織像。
⑤	老人性色素斑 [moth-eaten sign/border]	ダーモスコピーでみられる褐色病変辺縁の境界明瞭な虫喰い状の陥凹。
⑥	梅毒Ⅱ期の脱毛 [moth-eaten alopecia]	側頭部に多発してできる3～5mmの脱毛で虫喰い状に見えるのが特徴。
⑦	エクリン汗孔腫 [frogspawn-like appearance]	エクリン汗孔腫の血管に富んだ浮腫性の間質がダーモスコピーでカエルの卵の様にみえる所見。
⑧	AL型アミロイドーシス [raccoon eyes]	アライグマ（raccoon）の目の様な両側上下眼瞼の出血。頭蓋底骨折でもみられる。
⑨	trichofolliculoma [medusa's head (caput medusae)]	囊腫壁より突出する毛包構造が反転するとメドゥーサの頭のヘビのようにみえる組織像。門脈圧亢進症の徴候としては誰でも知っているが・・・。
⑩	豪猪状魚鱗癬 [ichthyosis hystrix]	hystrixとは豪猪（ヤマアラシ）のこと。ヤマアラシ状魚鱗癬と読む。
⑪	皮膚平滑筋腫 [eel-like nucleus]	平滑筋腫の腫瘍細胞の核がウナギ状に見える形状。葉巻型の核ともいわれる。
⑫	verrucous carcinoma [elephant feet-like appearance]	角化細胞の球根状ないしは鈍な舌状の増殖パターンの組織像を象の脚にたとえたもの。
⑬	血管周皮腫性パターンを示す腫瘍 [stag-horn-like (antler-like) configuration]	増殖した細胞集団間を走る拡張した血管を鹿の角（stag-horn、antler）にたとえたもの。antlerといえば鹿島アントラーズのシンボルマークが思い浮かぶ。

⑭	青年性扁平疣贅 [bird's eye cell]	表皮上層、数層にみられる特徴的な空胞化した細胞。
⑮	Cushing 症候群、肥満など [buffalo hump]	野牛肩ともいう。背部上部にみられる厚みを増した皮下脂肪。
⑯	結節性痒疹、多形慢性痒疹、 神経皮膚炎 [butterfly sign]	皮疹の分布が手の届かない肩甲部～中背部を避ける傾向があり、これをbutterfly signという。SLEのbutterfly rashとまぎわらしい。
⑰	獅子様顔貌 [leonine facies]	lepromatous leprosyだけでなく菌状息肉症、chronic actinic dermatitisなどでも獅子様顔貌を呈する。
⑱	[pork-cat syndrome]	経気道的にネコのアルブミンに感作され、交叉反応によって豚肉摂取でアレルギーを生じる。イヌからでも同様のアレルギーを生じる。
⑲	[bird-egg syndrome]	セキセイインコ、カナリア、オウムなどの羽毛で感作され、鶏卵摂取でアレルギーを生じる。その他の動物からの感作で生じるものには、クラゲに刺されて生じる遅発性納豆アレルギー。ダニに刺されて牛肉、カレイの卵、セツキシマブなどでαアレルギーを生じるAlpha gal syndromeがある。
⑳	ウエルナー症候群 [bird like face]	鳥様顔貌。尖った鼻、飛び出した様な眼球が特徴。
㉑	[traumatic anserine folliculosis]	摩擦により顎や首に毛孔性の丘疹を生じる疾患。anserはガチョウのこと。ガチョウの皮の様に、鳥肌の様にみえることに由来している。擦ると生じるのでアトピー性皮膚炎が背景にあることが多い。
㉒	[Leopard syndrome]	皮疹の褐色斑は豹柄 (leopard print) を表しているが、症状を列挙した病名でもある。列挙するとlentiginos、ECGの異常、ocular hypertelorism、pulmonary stenosis、abnormality of genitals、retarded growth、deafness。
㉓	蛇行性脱毛症 [ophiasis]	ギリシア語の蛇ophisに由来。側頭部から後頭部に帯状に脱毛するのが特徴です。蛇行性がつく病名といえば蛇行性血管腫、蛇行性穿孔性弾力線維症がある。
㉔	[myrmecia]	ミルメシアとはギリシャ語で蟻塚を意味する。紀元前にケルズス禿瘡で知られるケルズスにより命名された病名。
㉕	犬小孢子菌感染症 [microsporum canis infection]	犬小孢子菌といっても猫からの感染の報告ばかり、犬 canisからの感染は聞いたことがない。

②⑥	ガマ腫 [ranula]	舌下腺の損傷漏出により唾液が貯留、見た目がガマガエルののど袋に似ているためガマ腫とよばれる。
②⑦	メラノーマ [ugly duckling sign]	母斑が多発している時、他とは違うみにくいアヒルの子 (ugly duckling) の様な病変が紛れていればメラノーマを疑う。ダーモスコピーでも同様。
②⑧	メラノーマ [beaty and beast sign]	メラノーマを疑うダーモスコピー所見で、病変内部に異型のある構造が非対称に分布することをbeast signという。
②⑨	粒起革皮膚 [shagreen patch]	鮫皮の様に表面がブツブツした革というので意味である。結節性硬化症で、背部、臀部に生じる結合組織母斑。
③⑩	鷺口瘡 [thrush]	鷺口瘡の由来はのガチョウくちばしの先が白くなっているからといわれる。鷺口瘡は江戸時代の医者で使われていた病名で、明治になって家畜の口蹄疫も鷺口瘡という訳がなされているので、口の粘膜の病変を漠然と意味した様である。不可解なことにthrushという言葉は、ツグミという鳥を意味する名詞でもある。ツグミとカンジダ症の関係については浅田俊弥先生も指摘しているが謎である。
③⑪	神経線維腫 1 型 [ephelide-like macules]	NF1の95%にみられる腋窩や鼠径部や口囲の雀卵斑様色素斑。
③⑫	[Wolf's isotopic response]	Wolfらが、既存の疾患が治癒した後に同じ部位にそれとは無関係な新しい皮膚疾患が生じる現象を isotopic response と提唱した。帯状疱疹後に生じる isotopic response の報告が多い。Fox-Fordyce disease、Crow-Fukase syndrome、人名には狼ならず狐、カラスもいる。
③⑬	水痘 [chicken pox]	牛痘cow poxの様に鶏の感染症でないのに何故chickenかという諸説ある。1) 痘瘡small poxに比べて致命的でないので、「臆病者」という意味のchickenを用いた。2) 鳥の嘴で突かれた様な皮疹。3) 皮疹の大きさがヒヨコ豆。4) icchenというitchの古い英語がchickenに似ていたなどである。ちなみにgreat poxとは梅毒のこと。 ジェンナーが始めたvaccineの語源であるが、ラテン語で雌牛を意味するvacca。雌牛の乳房に発症する牛痘の抗原が初めて用いられたことに由来。
③⑭	良性の口唇、陰部粘膜のメラノーシス [fish scale-like pattern]	ダーモスコピーの所見で、魚の鱗が一方向を向いて配列する様に色素沈着がみられる。

③⑤	皮膚線維腫、基底細胞癌、 スピッツ母斑、メラノーマ など [chrysalis structure]	ダーモスコピーの所見で、chrysalinとはサナギのこと、線 維化した皮膚病変でみられる。shiny white structureは同じ 所見。
③⑥	Vohwinkel型角化症 [starfish lesion]	手背や足背に星形、ヒトデの様な形の角化性の紅斑を生 じる。本症に特徴的で神経性難聴を合併、Connexin26の 遺伝子変異を認める。
③⑦	かき殻疹 [rupia]	かき殻疹様乾癬、梅毒性かき殻疹などと表現される。鱗屑、 痂皮が同心円状に厚く重積し、かきの殻のようになったもの。

◆参考文献

皮膚病診療2006年11月号 聞き慣れない病名

皮膚病診療2012年3月号 足底の皮膚病

皮膚病診療2014年増刊号signs & symptoms

山元 修著 皮膚病理のサインとパターン 秀潤社

斎田俊明 宇原 久他 ダーモスコピーのすべて（改訂第2版）南江堂

「手」のプチ情報

今年のテーマは「手」でした。ジプシー・キングスの「Bamboléo」という曲をご紹介します。

ジプシー・キングスは1980年代から日本のファンも多いラテン系音楽のバンドで、現在も現役で活動中。日本でもCMソングの採用が多い有名なバンドです。私ずっと中南米のバンドだろうと思っていましたが、活動拠点はフランスでした。

この曲は、そら耳界では出来の良さ故有名です。ご存じの方も多いのでは？映像は3:57ですが、若干の前振り映像の後の出だし(0:50頃)です。

“医者も手がすいちゃあ、たまんねえな”にバッチリ聞こえます。一度、その日本語が脳にインプットされると、そのようにしか聞こえない名作です。元の歌詞は“YSIEL AMORILEGA ASIESTA MANERA”で、スペイン語なので意味不明です。

https://www.youtube.com/watch?v=7qbEt_lSib4



pen name

荒間 宋介

「愉快な一枚会」①



皆様、できますか？
私は左手では、右手の介助がないと出来ません。
不器用なだけ？老い？切ないっす。

pen name

荒間 宋介

「愉快な一枚会」②

インスタ映え狙いの集団手ハートの写真ですが、どうやら首謀者は左から2番目。

右から2番の人は張り切りすぎ、1番右の人は嫌々ですね。



仕上がりは、

左：きれいなハートでgood!

中：ハートというより玉葱またはカブ

右：ハートではない。こうもり？



pen name

荒間 宋介

「手」

30数年前、金曜日の24-25時ごろ実験を終えて、先行している同僚の飲み会に参加するのが楽しみでした。翌日は半ドンの土曜日、19時ぐらいまで頑張れば帰れるので朝の5時まで騒いでも大丈夫でした。その頃、飲み屋の女性の手を見て年齢をあてるのが得意で、かなりの的中率でした。今では、子供のアトピー性皮膚炎患者の両親の手を触る、

膠原病患者の手を診る、診断に困ったら手を見ながら首を傾げて煙に巻く、とにかく、手は触りやすく、見やすいのでよく見ます。自分の手をみるとステロイド外用と吸入のためか、萎縮が目立ち、皺くちゃで、80代くらいと残念な感じです。妻の手も老化していますが口が裂けても言えません。両親の手をみるとさらに残念な感じで、自分のきつい物言いが心に刺さりますが、つい本音で言いたいことを言ってしまう。若者のぷくぷくした手が羨ましいです。

片桐 一元

指輪物語

結婚指輪は、はめる機会がほとんどなかった。大事にしまっておいたのだが、いつの間にか無くしてしまった。夫には内緒である。

仕事を引退したら、「千と千尋の神隠し」の湯婆のように両手を指輪だらけにするのも楽しいかと思っていたが、数年前からヘバーデン結節がひどくなり、指輪とは縁が無くなった。

先日、手湿疹の女性患者がきた。左の環指に指輪をはめており、その周囲が腫れている。長年外したことのない結婚指輪だと言う。指輪を壊さずに外そうと試みたが駄目だった。「アクセサリーショップに行って、指輪を切ってもらいなさい。ついでにサイズ直しをしてもらったら。」と助言し、軟膏を処方した。患者は納得のいかない顔で帰った。

pen name

銭婆の妹

1)「孫の手」の語源

「孫の手」という背中を搔く道具がありますが、その由来は孫でなく「麻姑（まこ）」です。麻姑というのは中国の爪を長く伸ばした仙女の名前で、麻姑に搔かれたらいかにも気持ち良いというところに由来しています。思い通りに物事が進むことを「麻姑搔痒」、ちなみにその逆の意味が「隔靴搔痒」です。

2) 芸術家の手

思い浮かぶのは、画家ではルノアール、ルーベンスの関節リウマチ、パウルクレーの強皮症。作曲家ではラフマニノフの手、ピアノの鍵盤の12音階が片手で届く手の大きさ。身長約2mでマルファン症候群とも末端肥大ともいわれている。ラフマニノフは原発巣不詳のメラノーマの全身転移で死亡したといわれる。

3) 汗疱（異汗性湿疹）と季節

汗疱（異汗性湿疹）は、梅雨が始まる初夏に多くみられるが、春先や秋から冬にかけての季節の変わり目にも多くみられる気がする。夏には大量にかいてても汗は体外に排泄されるが、春先や梅雨時では暑くなって来ているにも関わらず暑熱順化がまだ充分でないので、代償性に手掌、足底の発汗量が増えることが考えられる。一方、秋から冬にかけては体外に排泄されていた汗が急に排泄されなくなり手掌、足底の発汗量が増えることが考えられる。精神性発汗は環境温（体温）が高いとむしろ抑制され、体表面上で汗が滴るような暑い環境になると手のひら、足の裏は乾くとされるが、掌蹠多汗のメカニズムを考えるヒントになりそうである。さくら皮フ科の横井先生が運動して汗を出さないと自分の手に異汗性湿疹が出てくるといっているが、運動して汗をかくことは汗疱や異汗性湿疹の予防になるようである。汗疱（異汗性湿疹）は発汗のみならず、金属アレルギーが関

与したり、免疫グロブリン大量療法が関与したり一筋縄には行かない疾患である。

4) 手で触れるという大切さ

コロナ禍でなくても素手で皮膚に触れる医師が少なくなった様な気がする。コロナ禍ではさすがにいやがる患者さんもいるかも知れないが、一種のスキンシップ、心の交流の手段として重要である気がする。MRIや皮膚ECHOの診断が発達しても、素手で触れて硬さ、境界、可動性、圧痛などを認識する。採った病変にも触れてみて診断することの重要性は依然として高いと思う。時代錯誤かも知れないが、イボの治療を冷凍しては素手で解凍するという治療行為は今でも大切だと思っている。おかげで何度も感染しているが、その都度「感染しているうちは未熟な証拠だ。」と言っていた今は亡きHPVの権威、新村教授の声が聞こえる。

5) 診察室での手にまつわる会話

①「先生助けて下さい。ワラにもすぎる思いで来ました。」

「残念ながらこの病気に関しては私の手は神の手などではなく、まさにワラそのものなんです。それでもすぎりますか？」

「.....」

②「この子の手、どうしてこんなに荒れちゃったんですか？」

「コロナが流行っているからってキレイキレイの使い過ぎ。だからこんなキタナイキタナイになっちゃうの。」

pen name

風の蚤三郎

次号のお題

「足」

応募方法

- ・お名前
- ・ペンネーム
- ・所属先
- ・ご連絡先
- ・作品

<送付先>

メール送付先

kaihou@saitamahifuka.org

郵送先

埼玉県医師会内

埼玉県皮膚科医会 会報編集委員会

宛て



「ポケットコンピューター」 ーレトロポケコンからスマホまでー

川越市・埼玉医科大学総合医療センター

人見 勝博

■スマートフォン（スマホ）は、現代人のマストアイテムである。

スマホは多機能な超高性能ポケットコンピューター（ポケコン）の一種である。通話機能に留まらず、写真／動画撮影、ゲーム、電子書籍、メール、ウェブ閲覧、マネー決済、チケット／受診予約、地図／ナビゲーション、時計／タイマー／水平器、万歩計などアプリケーション（アプリ）次第で何でもこなすことができる。アプリはオンラインストアに山と用意されており、ユーザーは選り取り見取りで取得できる。さらに防水防塵、大容量バッテリーを搭載した機種も多く、大変使い勝手が良い。今の臨床実習生は教科書や資料をタブレットまたはスマホ1台に集約して持ち歩いているし、講義ではプリントを受け取り次第すぐにカメラで撮影し電子化する学生もいる。昨今増えたWEB講演会は、案内チラシに印刷されたQRコードを介してスマホで登録すると便利のようにできている。私が何より凄いと思うことは、「以上のような機能を、誰でもコンピューターの知識無しに活用できる」ということである。私の母がスラスラとiPadを使いこなす奇妙な姿を見る度に、iOSの高い完成度と時代の変化を認めざるを得ない思いが湧いてくる。本稿では、元々ポケコンとはプログラミング前提のデバイスとして始まったことを、私の青春時代に当たる1980年代のコンピューター黎明期の様子を実体験と共に書いてみたい。

■1980年代、パーソナルコンピューター（PC）は非常に高価であった。

日本電気（NEC）が1976年に発売したトレーニングキット TK-80（88,500円）から本邦のマイコンブームの火が付いたらしいが、片田舎に住んでいた私にそのような記憶はない（当時5歳）。小学校に上がった私が生まれて初めて触れたPCが、NEC PC-8001（1979年発売、168,000円）であった。表示装置は8階調グリーンディスプレイ、外部記憶装置はテープレコーダー（600 bps）であった。両親が電気店を営んでいたことから、自宅兼店舗の一角にデモ機として置いてくれたPCだった。プログラムのロードと実行方法を教えて貰い、「スペースインベーダ」や「PUCK MAN」、「クレイジーバルーン」、「サブマリン」、「ガンダム」など充実したゲームタイトルを遊ぶことができた。デモ機2代目はSHARP MZ-80B（1981年発売、278,000円）だったが、「スタートレック」で遊んだ記憶しかない。デモ機3代目、PC-8001 mk II（1983年発売、123,000円）からは雑誌・書籍に掲載されたBASICプログラムを自ら手入力して遊ぶことを覚えた。現役女子高生（？）著「高橋はるみのゲーム・ライブラリー」が愛用書であった。フロッピーディスクドライブ（FDD）は高嶺の花で、中学3年生の時に初めて触れたFDD（PC-8801 mk II SR、1985年発売、258,000円の内蔵ドライブ）の簡便性と高速性には大変感激したものである。

■ポケットコンピューターは手頃な価格で入手できた。

ポケコンの元祖は、SHARPが1980年に発売したBASIC言語採用のプログラマブル・コンピューター PC-1210/1211とされている。CASIOも翌年にFX-702Pで追従した。ポケコンの長所は、小型

表. ポケコンのスペックの一例

	機種	発売年	価格 (円)	CPU	クロック (MHz)	標準RAM (KB)	画面表示 (ドット)	マシン語	電源	ベンチマーク (秒)	
										表示テスト	数学関数
CASIO	PB-100	1982	14,800	HD61913	不明	1	12桁 1行	×	CR-2032	4.0	12.7
	PB-700	1983	34,800	HD61917	不明	4	20桁 4行 (160 x 32)	×	単三	5.1	14.5
	FX-840P	1987	19,800	HD62002	1.228	8	32桁 2行	×	CR-2032 CR-1220	2.2	5.7
	FX-870P	1990	28,000	HD61700	0.910	32	32桁 4行 (191 x 32)	○	単三 CR-1220	3.9	10.1
	FX-890P	1992	34,800	i80188 (16 bit)	3.86	64	32桁 4行 (192 x 32)	○	単三 CR-2032	1.9	4.1
SHARP	PC-1245	1983	17,800	SC61860	0.576	2	16桁 1行	○	CR-2032	11.4	39.4
	PC-1360	1986	36,800	SC61860	不明	8	24桁 4行 (150 x 32)	○	CR-2032	8.0	24.0
	PC-E500	1988	28,800	SC62015 (8 bit)	2.3	32	40桁 4行 (240 x 32)	○	単四 CR-2016	1.4	4.3
	PC-G850	1996	OPEN	Z80互換 (8 bit)	8	32	24桁 6行 (144 x 48)	○	単四	0.6	4.1
APPLE	iPhone 8 plus	2017	89,800	A11 (64 bit) (6 コア)	2.32 (GHz)	3+64 (GB)	(1,920 x 1,080) フルカラー	×	Li-ion	-	-

※ ベンチマーク結果は『懐かしのパソコンとポケコンの部屋』から引用 <https://honhiro.web.fc2.com/BenchMark2.html>

軽量、長時間駆動、電源ONで直ぐにOSが立ち上がる軽快性、そして何より安価であることにあった (図1、表)。コンピューターに興味はあるがデスクトップPCを買えない低所得者層をポケコンが救った。1982～1983年に1万円台で発売されたCASIO PB-100、SHARP PC-1245から子供や学生を含めて急速に普及した感がある。私もPB-100に飛びついた一人だ。読者投稿プログラムを掲載する月刊誌「マイコンBASICマガジン」が発刊され、毎月2本程度のPB-100用ゲームプログラムが採用された。

1983年は、任天堂 ファミリーコンピューターが発売された年でもある。14,800円という低価格でありながら、既存のいかなるPCをも圧倒する美麗でスムーズに動作するファミコンゲーム群には驚かされた。一方、ポケコンの対抗機は任天堂 ゲーム&ウォッチに代表される小型LSIゲーム機であり、能力的に競合することができた。

■CASIOとSHARPの一騎討ち、ユーザー間の戦い (1980～1990年代初め)

1970年代の電卓戦争を勝ち抜いたCASIOとSHARPの2社が、ポケコン市場でも激しく争った。製品の優劣は、単にハードウェア性能のみで決まるものではない。市販ソフトはほとんど出なかったために、ポケコンを活かすには各ユーザーのプログラミング技術が求められた。当時は、学校の昼休みや雑誌面でCASIO派とSHARP派とに分かれ、自作プログラムやハードウェア解析などで優劣を競い合ったものである。私の高校時代までは身近に数人のポケコンユーザーが居たが、ことごとく工学部に進学していった。私の医学部入学以降は主戦場をI/O別冊・月刊「ポケコンジャーナル」に移し、1人でプログラムを組んでは雑誌に投稿していた (図2)。それも1996年に休刊になってしまった。

現在はWindows上で動くCASIO FX-890Pのエミュレーターが公開されており、クロス開発が可能になっている。完成作品は動画サイトとファイル共有サービスとで自ら一般公開できるし、ニッ



図1. 私の歴代愛用機 (発売年)
上から iPhone 8 Plus (2017、私の初スマホ)、PB-100 (1982、小学校5年)、FX-840P (1987、高校3年間の相棒)、FX-870P (1990、医学部1年)、FX-890P (1992、医学部3年、CASIO最後の機種)。ポケコンは機能強化と共に大型化した。

ちな世界ではあるがTwitterを利用すれば今なお生き残るレトロPCユーザーらが宣伝拡散に協力してくれる。

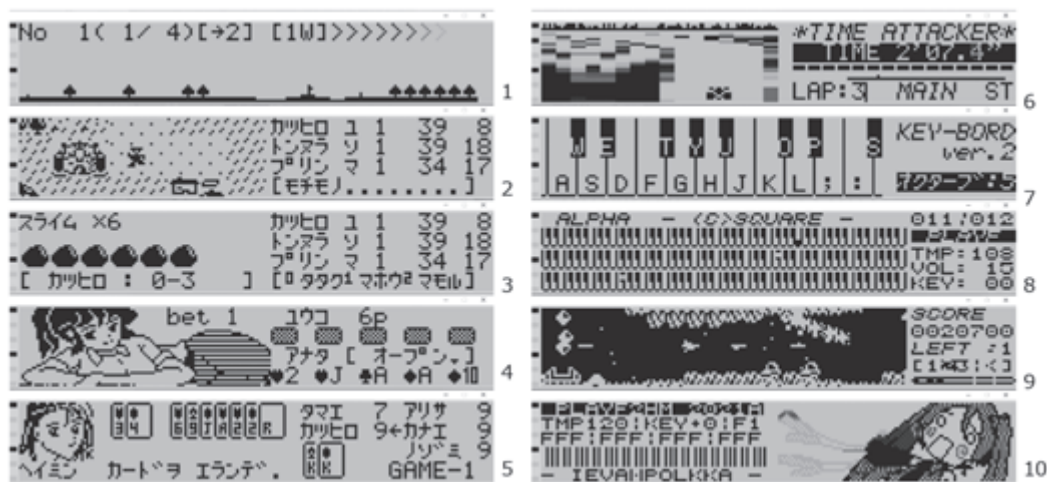


図 2. 医学部入学以降に組んだ自作ソフトの一部 (I/O 別冊月刊「ポケコンジャーナル」掲載号)

1. GOLF-FX (1991.6、2D ゴルフゲーム、私の雑誌デビュー作)。
- 2-3. KING OF DARKNESS (1993.1、ドラクエ風 RPG)。
4. 脱ぎPORKER (対ポケコン・脱衣ポーカーゲーム)。
5. 通信対戦・大富豪 (1993.3、通信対人戦も可能なカードゲーム)
6. TIME ATTACKER (1993.8、疑似3D レースゲーム)。
7. KEY-BOARD ver. 2 (1994.9、キーボード化ソフト、オールマシン語)。
8. PLAYF (3重和音演奏ソフト、オールマシン語、<https://youtu.be/Bat3WGojj2s>)。
9. MOF (1995.1、横スクロールシューティングゲーム、オールマシン語、<https://www.nicovideo.jp/watch/sm37649232>)。
10. PLAYF ver. 2 はちゅねミク (2021年新作、MML 演奏ソフト、オールマシン語、<https://www.nicovideo.jp/watch/sm39076755>)。

■レトロポケコンの終焉（1990年代中盤）、スマホの普及（2007年以降）

電子手帳（1980年代後半）や任天堂 GAME BOY（1989年）の発売により、情報端末・携帯ゲーム機としてのポケコンの優位性は無くなった。PCの低価格化も進んだ。市販ソフトウェアが充実すると共に、個人がプログラムを組む必要性も薄らいだ。ニコニコ動画に当時のPC事情を歌う動画が2本アップロードされている (<https://www.nicovideo.jp/watch/sm1377692>、[sm2984836](https://www.nicovideo.jp/watch/sm2984836))。各社独自規格のレトロPC (PC-9801、X68000、FM-TOWNS、MSXなど) が Windows 95の登場により消滅した頃に、プログラマブル・ポケコン (レトロポケコン) の時代も終わった。それ以降、さまざまな携帯型電子機器が出ては消えていった。しかしながら、2007年にiPhoneが本邦に上陸してから現在まで、スマホが日常生活に欠かせない存在になってきたのは皆御存じの通りである。

30年前は自身のプログラミング技量と工夫次第で何でもできるという信念をもってポケコンをいじっていたが、現在のPCやスマホは苦も無く出来合いのアプリで何でもできる。今と昔とでは「何でもできる」という表現の前提となるものが変わってしまった。それ故、コンピューターが一見身近になったようでいて、受け身的で遠退いた感じもするのである。



さいたま市立病院 (さいたま市緑区)

皮膚科部長
齋藤 京

今回の会報は第10記念号ですが、私一度創刊号に当院の病院紹介を書いております。10年が過ぎ、病院の建て替えもありましたので、今回、もう少し掘り下げた当院皮膚科の歴史を投稿しようと思います（受診方法などの定型的情報は当院HP（<https://www.city.saitama.jp/hospital/>）にお任せします）。

当院は1953年50床の浦和市立伝染病院として生まれました。医療ニーズ（大学病院が浦和市にありませんでした。県庁所在地なのに、）は強く、徐々に増築・拡大を続け、1972年浦和市立病院に改称、翌年東病棟が完成します。でも、規模はまだ小さく、本格的な総合病院化をしたのは1988年に西病棟が新築され、1989年標榜科14科となった時と言えます。その時は370床でした。

当院初代皮膚科部長は現埼玉県皮膚科医会会長の仲弥先生ですが、谷川（井出）瑛子先生（旧慶大皮膚科准教授）とともに当院に赴任されたのは1988年、つまり、総合病院となる前からであり、内外の開拓に尽力されたとお察しいたします。でも、この名医2人が並ぶ診療となると、患者さんにとってはとても豪華ですね。外来も1日20-30人とのんびりだったそうで、患者さんは丁寧な診療に満足して帰ったことでしょう。

皮膚科の初期構築が済んだのち、1991年杉俊之先生にバトンタッチされました。そして病院規模は徐々に拡大し500床を超えます。2001年さいたま市成立に伴いさいたま市立病院に改称しますが、その際、カバーする医療圏も拡大し、忙しくなったと聞いています。

さて、2005年私が当院に赴任して今年で17年目、何か爪痕を残せたかと考えても特別なものはありません。ただ、この間に、医学の進歩（新しい機械や薬など）、医療状況の変貌（高齢化や社会的ニーズの複雑化）、働き方改革など多くの変化が押し寄せてきましたが、ついていけるようには心掛けて頑張ったかなあ、という実感はあります。その結果、手術や外来の件数は増えました。周囲の基幹病院や医院とのネットワーク構築も進み、連携は確実に良くなったと思います。以前は土地柄でしょうか病院間の連携がよくなく、平塚勤務の頃の神奈川の5KK会（慶応関連病院の内輪勉強会）を知っている私は孤立感に物足りなさを感じましたが、現在、埼玉にも大学の垣根を超えた同様の勉強会である埼玉難治性皮膚疾患臨床研究会ができました。また、当医会の仕事をしているおかげもあり、



新病院



病室から見える富士山

多くの先生と互いの顔がわかる関係を築けています。感謝です。

当院は病院を完全に建て替えて、2020年初めから標榜科29科、637床で新たなスタートを切りました。さあ頑張ろうと張り切った矢先のコロナ禍で病院全体が混乱していますが、新しい環境はやはり新鮮で気持ちがいいです（病室からの眺めが最高！）。細かい問題は絶えないのですが、よい診療を提供できるように、今まで通りコツコツ努力していく所存です。そうそう、2021年7月から常勤医が2から3名に増えました。ようやくです。

蛇足ですが、当院主力の建物で皮膚科とともに歴史を刻んだ西病棟は32年の使用で役目を終えました。無くなってしまうのかと一時さみしさを感じましたが、その後、コロナの混乱などで解体が進みません。作る予定の駐車場ができない問題が深刻になっており、むしろ早い解体を望むこの頃です。



旧病院西病棟

豆知識

似たような言葉

①lymeとlime

ボレリア感染症であるlyme diseaseのlymeはコネチカット州の地名である。一方、日が照り注ぐ屋外でカクテルを作る際、ライムlimeを絞った手に生じる皮膚炎があり、カクテルの名をとってマルガリータ皮膚炎という。ソラレンによる光毒性反応によるもので、こちらは同音異語のlime diseaseともいえる。

②suction blisterと sucking blister

suction blisterは尋常性白斑の植皮治療の際にドナーとして使う吸引水疱のこと。

sucking blisterは胎児が母胎内で嚙徹反射により吸うことで生じるもので、出生時に口唇、手や腕にみられる水疱やびらんのことです。



上尾中央総合病院 (上尾市)

皮膚科科長
出光 俊郎

上尾中央総合病院は、JR上尾駅のすぐそばにある病床数733床、常勤医師数282名の大学の医療センターにも匹敵する規模の地域中核病院です（写真左）。ご存じのように当院皮膚科は東京医大の主要な派遣病院（日本皮膚科学会一般研修施設）であり、帝京大皮膚科からも週に半日、外来業務のご支援をいただいております。特に金曜日午前には内山真樹先生（東京医大客員講師）の外来診療があり、脱毛症患者さんが多く来院します。現在、皮膚科常勤医師は3名体制で、私以外は専門医研修中の専攻医ですが、病院規模の大きさや患者数などから東京医大の原田和俊主任教授のご配慮のもと、精鋭の若手が派遣されております（写真右）。埼玉県北部を中心に、近隣の施設から多くの患者さんをご紹介いただき、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。実際、救急や予約外の受診患者も多く、最近の印象としては類天疱瘡や蜂窩織炎、帯状疱疹、重症薬疹の入院患者が目立ちます。野戦病院だといわれていますが、実際に戦争をしているわけではなく、野戦病院こそが正確な診断と瞬時の判断が求められるわけですから、いかげんな診療の言い訳にはなりません。そこは自戒して、他科との連携はもちろん、いかに多忙でもガイドラインをもとに正確な診断と論理的な治療を第一に診療にあたっております。大学病院並みの高度なレベルのことはできませんが、救急部をはじめ他科の先生方と連携して、病院の内外に皮膚科の存在をアピールできる診療科を目指しています。

このほか、病院全体としては褥瘡外来のほか、フットケア外来や下肢静脈外来、足のむくみ外来もあり、ハイレベルのケアと治療を実践しております。とくに、褥瘡やフットケアでは、皮膚科医も参加し、形成外科や循環器内科、心臓外科、そして、専門ナースやリハビリ部門などとともに、協同で診療に関わっています。病理部もしっかりと病理診断サポートをしてくれており、大変、心強く思っております。

現在、当病院は、がん拠点病院として発展しつつあります。内科系、外科系を問わず、がん治療のスター的な医師が大学やがんセンターから集まってきています。一方、皮膚がんについては診断、生検が主体で、パジェット病やメラノーマなどは県立がんセンターや県内大学病院などに紹介しております。また、他科のがん患者の分子標的薬などによる皮膚のトラブルについては、当科で診療をしています。



さて、将来的には大学病院と連携した生物学的製剤のエキスパートによる特殊外来や治験など
もできる皮膚科、そして、学会などで情報を発信できる皮膚科として発展の余地はあると考えて
おります。上尾中央総合病院皮膚科をよろしくお願いします。

当地では実業団バレーVリーグの埼玉上尾メディックスAGEO MEDICSが有名です。このチーム
は上尾中央医科グループを母体としており、病院所属の職員もおります。浦和や大宮のサッカー
だけでなく、上尾の女子バレーもぜひ応援していただければ幸いです。

<https://amg.or.jp/medics/>

豆知識

アタマジラミ、ケジラミ、コロモジラミとヒトの歴史

遺伝子学的解析で、アタマジラミは600～700万年前にヒトとチンパンジーの共通の祖先に寄生、
ケジラミは約300万年前にゴリラから感染したといわれる。ゴリラからの感染は、草をしとねに
寝た時に移ったといわれるが、性行為という説もある。コロモジラミは、約7万年前にアタマジ
ラミより派生したとされる。ヒトが衣服を着るようになって、毛がなくても衣服に卵を産み付け
ることができる様に遺伝子変異をおこしたといわれる。コロモジラミの誕生時期が遺伝子学的解
析で判明したことにより、約7万年前よりヒトが衣服を着るようになったことが分かったとい
うのは驚きです。

何故、シラミの種類により寄生場所が違うのかといえば、爪の形態学的な差で、毛髪は他の部
位の体毛より細く爪の小さなアタマジラミが寄生するにはちょうど良い太さであるのに対し、爪
の大きなケジラミには陰毛、脇毛、胸毛、まつげがちょうど良い太さであるからです。なおトコ
ジラミ（南京虫）はカメムシの仲間ではシラミには属しません。



埼玉医科大学国際医療センター (日高市)

皮膚腫瘍科・皮膚科教授
中村 泰大

埼玉医科大学国際医療センターは、がん・心臓病・救命救急（脳卒中等）に対する高度専門特殊医療を国際水準で提供するという使命のもと、2007年に設立されました。がん・心臓病・脳血管障害に附随する手術、内視鏡治療、および放射線治療など件数は、複数項目で全国大学附属病院中トップテンに入る項目が最も多く（週刊朝日MOOK、2021/9/24より）、当該領域では全国屈指の治療件数を誇る施設となっています。

皮膚腫瘍科では、メラノーマ、有棘細胞癌、基底細胞癌、乳房外Paget病を中心に、メルケル細胞癌、血管肉腫や隆起性皮膚線維肉腫を含む軟部肉腫、一部の皮膚リンパ腫などを含む皮膚悪性腫瘍全般、母斑、母斑症、皮膚・軟部組織良性腫瘍を含む皮膚腫瘍全般に特化した専門的診療を展開しています。

当科の特徴は自科単科で幅広いレパートリーの皮膚外科手術をカバーし皮膚科医の視点でより適切に手術を選択する、という点かと思えます。皮膚がん手術に附随する体表すべてのリンパ領域の生検・郭清（頸部、耳下腺、腋窩、鼠径、骨盤内、膝窩、内側上顆）、植皮、局所皮弁から動脈皮弁・筋皮弁を含む複雑な再建術、難易度の高い血管腫や母斑症などの外科治療まで守備範囲としています。当院は国際医療機能評価Joint Commission International認定病院であるため、個々の医師がどのレベルの手術まで行っても良いかというprivilegeが経験手術件数をもとに厳しく定められています。手術は院内の許可制となるため、執刀経験の少ない手術を興味本位で行う、などということはありません、患者さんへの手術安全性が担保されています。皮膚腫瘍科での上記手術もすべて院内の厳しいprivilege評価のもとにその施行が許可されています。

手術に加え化学療法および放射線療法などの集学的治療も皮膚がん治療に不可欠です。我々も「手術を行わずに治癒に導くのが最良の治療」と考えており、皮膚がんの種類や病期によってはむしろ化学療法、放射線療法の方が低侵襲、かつ効果的であることが多々あります。その適応を見抜き適切なタイミングで行うのも我々の大きな強みです。

大学附属病院の使命として研究も大きな柱となります。新たな標準治療創出をめざし、現在20以上の多施設共同臨床研究を行っております。当科が主導する代表的前向き多施設共同研究と



図1 当院の航空写真



図2 近々オープンする化学放射線治療棟（F棟）

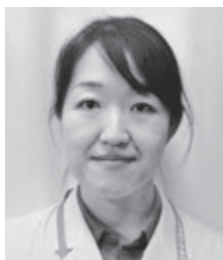
して、「浸潤性爪部悪性黒色腫への指趾骨温存手術の前向き臨床試験（JCOG1602）」、「頭頸部基底細胞癌の縮小マージン切除の前向き臨床試験（JCOG2005）」があり、日本医療研究開発機構（AMED）より研究費を取得し現在も試験遂行中であります。日頃から先生方より候補となる患者さんをご紹介頂いており、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

現在皮膚腫瘍科は6名のスタッフで診療・研究に当たっております。スタッフの多くは皮膚腫瘍の診療に興味を持ち他大学から当科に加わった皮膚科医であり、日々充実した毎日を過ごさせて頂いております。先生方のご紹介により数多くの診療経験を積ませて頂いておりますことを日々心より感謝しております。

このように豊富な診療経験に基づく診療・研究の成果を「地域から世界に発信」し、その成果を「地域の患者さんに還元し役に立つ」ことを目指して日々努力しております。埼玉県皮膚科医学会の先生方におかれましては今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



図3 多くの手術に従事する当科スタッフ



多恵皮ふ科

蕨・戸田地区・多恵皮ふ科
井上 多恵

秋田から埼玉に大移動し、さいたま赤十字病院で12年半在任中は、埼玉県皮膚科医会の皆様に大変お世話になりました。秋田では「研究」中心で、埼玉では皮膚科医としての「臨床力」をつけたい、という目的があり12年間突っ走ってきた印象です。しかし2年前あたりより体調が悪くなりはじめ、ほかの色々な道を模索し諸事情により頓挫し、2020年の9月から本格的に体調を崩し仕事を休み、12月末でさいたま赤十字病院を辞職しました。埼玉県皮膚科医会の皆様には理事として諸々の役割を果たせず大変ご迷惑をおかけしました。

年明けよりぼちぼちリハビリに非常勤のお仕事を始めた頃、自宅近くの開業物件のお知らせのお手紙が来ました。大阪のチェーン薬局の医療モール開業支援で全てお膳立てされており、これなら多少体調悪くてもなんとか流れにのって開業できるかな？と思って開業に踏み切ることになりました。

コロナ禍での開業でしたので、自動釣り銭機の導入、クラウド型電子カルテ、Web問診、順番予約、LINEとメール順番確認・連絡システム、LINEオンライン診療の導入など、ITツールの活用で待合室の「密」状態や院内感染を防ぐ対策が必要となりました。

ドラえもんのように色々な治療を提案できるクリニックを目指しており、かつのび太君が暴走するときには止められる診療が理想です。特色のある診療としましては、

- 1) 保険診療；紫外線照射器（ナローバンドUVB、ターゲット型エキシマライト）、超音波（皮膚では保険請求できませんが）、ダーモスコピーと電子カルテのクラウド連動とディスプレイ表示、パッチテスト、プリックテスト、皮膚生検、小手術、いぼ治療やフットケアではフスプレーガーを用いて苦痛を軽減しております。顕微鏡もモニターをつけて結果が患者さんに見える化しました。乾癬の生物学的製剤承認施設になり、済生会川口総合病院と連携をとりながらインフリキシマブ以外の生物学的製剤導入が行えます。アトピー性皮膚炎のJAK阻害剤治療も始めました。隣に総合内科クリニックが開業しましたので、胸部X線撮影や迅速血液検査など連携しながら診療しております。



新山千春さんと（月刊Anchor10月号掲載写真）



HIFEMのデモで悶絶する私

2) 自由診療；Q-スイッチルビーレーザー、ロングパルスAlex、YAGレーザー脱毛とレーザーフェイシャル、炭酸ガスレーザー、HIFE（しわ、たるみ）、HIFEM（医療痩身）と体組成計、マイクロニードリング、ケミカルピーリング、エレクトロポレーション、イオントフォレーシス、医療用LEDを用いた男性型・女性型脱毛症治療、SADBE、ゼオスキン（トレチノイン、ハイドロキノン療法）、ヒアルロン酸・ボトックス注入療法にも挑戦しております。巻き爪治療も、手術の他に、ワイヤー法、3TO（VHO）法、これからペディグラスも取り入れる予定です。

アラフォーは、美魔女皮膚科医を目指しておりましたが、アラフィフ以降はドラえもん皮膚科医を目指して頑張りたいと思います。今後ともどうかよろしく御願い申し上げます。

豆知識

ハイリスクHPVと子宮頸癌、中咽頭癌

男性にとって、子宮頸癌のほとんどに関わるハイリスクHPVは保有していても発症しないし、どこに感染しているかわかりません。90%自然に免疫力によって排除されていくといわれます。皮膚科医にとっても、顕在化する病変は、性器、肛門のボーエン様丘疹症、手指のボーエン病ぐらいで、極めて稀という感があります。ところが2000年代になって男性の中咽頭癌が急増し、その半数にHPVが関連し、その約90%にHPV16型が見出されています。アメリカではHPV関連中咽頭癌がHPV関連子宮頸癌の数を上回ったというのは驚きです。最近、音楽家や俳優、芸能人が中咽頭癌を発症したという記事を目にする機会が多くなった気がします。職業柄、女性との交際が多いのでしょうか。男性も子宮頸癌ワクチンを9～14歳ですべきというのがWHOの見解、うなずける気がします。

入会あいさつ



所沢市・おうえんポリクリニック皮膚科
白井 拓史

この度、埼玉県皮膚科医会に入会させていただいた白井拓史と申します。1999年に広島大学を卒業し、神経内科に入局した後に、2006年から所沢市のおうえんポリクリニックで内科診療を行ってきました。その後、皮膚科医になるべく、2015年から信州大学皮膚科学教室で6年あまり研修してまいりました。6年間は主に病棟医として、メラノーマをはじめとする皮膚腫瘍や炎症性皮膚疾患、薬疹の診療にあたってきました。特に免疫チェックポイント阻害薬のマネージメントに尽力してきました。2021年8月から所沢市に戻り皮膚科診療に従事しております。現在は、アトピー性皮膚炎や尋常性乾癬、疣贅などのコモンディージーズを中心に診療しており、患者満足度を高めるべく、毎日悪戦苦闘しております。今後ともご指導の程よろしく申し上げます。



行田市・春山皮膚科クリニック
春山 護人

この度、埼玉県皮膚科医会に入会させていただきました春山護人と申します。

2006年に福岡県北九州市にある産業医科大学を卒業し、卒業後も修学資金返済のため、大学病院を中心に福岡県内で勤務しておりました。返済終了後、地元が埼玉ということもあり、2018年4月より熊谷総合病院へ勤務、2020年12月に行田市に春山皮膚科クリニックを開院させていただきました。

本会へは個別指導の相談会で埼玉県医師会を訪問した際におすすめていただいたことがきっかけで、入会させていただきました。

開業してまだ1年ですが、県北は皮膚科が少ない地域でもあるため、諸先輩方に色々学びながら地域医療に貢献していければと考えております。色々ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



さいたま市中央区・さいたま赤十字病院 皮膚科
三石 剛

私は令和3年4月1日よりさいたま赤十字病院 皮膚科部長に就任致しました。これまで東京女子医大病院及び附属八千代医療センターに22年、日本医科大学附属病院に10年の計約30年、教員を兼ねて勤務して参りました。さいたま赤十字病院は以前は、竹村部長や井上部長らが歴任されていた歴史ある中核病院と理解しております。現在、当科は2大学病院からのご支援が得られ、常勤医3名と非常勤医2名で構成され、炎症性疾患から腫瘍性疾患まで幅広い皮膚疾患に対応できる診療を心がけております。皮膚科診療において特に専門分野はドイツ癌研究センター腫瘍ウイルス部に留学してきた経験から、子宮頸癌や疣贅の原因であるHPVについては、臨床・病理・遺伝子工学らを学び、『いぼ専門外来』で診療をこれまで20年間行って参りました。虎の門病院皮膚科に出向した経験から、基底細胞癌、有棘細胞癌らの皮膚癌をはじめとした局麻、全麻の手術も積極的に行っております。また昨今は、レーザー機器の進歩や内服治療の目覚ましい進歩から、乳児血管腫のハイブリッド治療に取り組んでおり、『乳児血管腫専門外来』を産科、小児科の先生方と連携し、診療を行うように至りました。科専門外来の紹介を当院のホームページ上で掲載しております。

最近はおミクロン株をはじめとしたコロナ禍が続いており、ワクチン接種後のブレイクスルー感染も報告があります。埼玉県皮膚科医会ではweb主体の講演となっておりますが、可能な限り積極的に視聴や参加していく所存です。また近隣の医院・診療所の先生方との診療連携の強化を図り、紹介率、逆紹介率の向上を目指していきたいと考えています。今後とも何卒、ご指導、ご鞭撻を受け賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

小話

ふくよかな女性がブラウスのボタンをはずして

「先生、これは何という病名ですか？」

「ジベルばら色秕糠疹です。160年前の1860年のこと、フランスのジベルという医者がつけた病名です。ばら色はロゼを訳したもので淡い赤、秕糠とは精米した後のカスで、それを降りかけた様に皮が剥けているのが秕糠疹です。1ヶ月位で自然に治ってしまうので心配はありません」

「ジベルばら色、何かベルサイユのばらが彷彿される様なロマンチックな病名ですね」

「皮疹のみられる場所を診ているとベルサイユのばらというよりもLサイズの腹という感がありますね」

「・・・・・・・・・・・・・・・・」



マーケットレストランAGIO ～気楽に楽しめるイタリアン～

さいたま市緑区・あきもと皮膚科クリニック
秋元 幸子

私が紹介したいのは、浦和のイタリアン、AGIO（アジオ）です。浦和伊勢丹系列で、伊勢丹の近くに路面店としてあります（写真1）。好きなところはホールが広々しているところ、密閉密集ではありません。適度に賑やかなで気楽な雰囲気なところ、小さい子供さんも気兼ねなく入れます。そしてお料理も美味しいです。

好きなメニューはシーザーサラダ（写真2）：大きなブロックチーズをその場でナイフで薄く削って、好きなだけトッピングしてくれます。ペペロンチーノスパゲッティ（写真3）：スープがほぼなく、具材もなく、細麺の Pasta と真ん中にある唐辛子だけの、シンプルなペペロンチーノです。一時メニューから消えましたが、裏メニューとして残っていました。多分リクエストが多かったのか、少し前から表に復活しました。その他、鳥の唐揚げ、豚肉のソテー、薄い生地のマルゲリータピザも好きです。料理はどれも凝ってはいません。少し大味かなとも思いますが、素材の味が楽しめます。

たまにお客さんが来た時にも、一緒に行きます。今回の写真は、昨年末、息子たち夫妻が訪れたときに撮ったものです。最後にカプチーノを頼みました。私にクマ、お嫁さんにウサギのデザインが施されていました（写真4）。私には何となくの熊にしたのかな、お嫁さんは可憐なうさぎに見えたのかな、などと思いました。記念日だと伝えると、デザートあたりにサプライズがあるかもしれません。

マーケットレストランAGIO浦和店

さいたま市浦和区高砂1-14-7伊勢丹アイプラス1ビル

TEL: 050-5597-3357



写真1 明るい外観



写真2 チーズたっぷりのシーザーサラダ



写真3 シンプルなペペロンチーノ



写真4 ラテアートが施されたカプチーノ

埼玉県皮膚科医会 2021年度 事業報告

2021年

5月16日 第1回役員会（ラフレさいたま）

1. 2020年度第2回役員会議事録の承認
2. 学術委員会からの報告
3. 皮膚の日委員会からの報告
4. 広報委員会からの報告
5. 健保委員会からの報告
6. 女性会員活性化委員会からの報告
7. 会員親睦委員会からの報告
8. 日臨皮委員会からの報告
9. 2021年度定例総会について
10. 保険審査委員推薦の報告
11. 「日医医学賞」「医学研究奨励賞」候補の推薦依頼について
12. 全国サーベイランス参加医療機関募集について

定例総会（ラフレさいたま）

1. 2020年度事業報告について承認を求める件
2. 2020年度収支決算書に関し議決を求める件
3. 役員一部改選について承認を求める件
4. 2021年度事業計画（案）に関し議決を求める件
5. 2021年度収支予算（案）に関し議決を求める件

第65回埼玉県一枚会

1. 症例検討
2. 健保 Q & A
3. 特別講演
『汗の診療ーよく診る疾患とアプローチに
ついて 日常診療でできることー』
池袋西口ふくろう皮膚科 院長
藤本智子 先生



皮膚科医会（藤本智子先生）（2021.5.16）

6月29日 第1回皮膚の日委員会（WEB会議）

1. 前回の反省点、改良点の検討
2. 開催方法（on-site? web?）
3. テーマと講演（講師・講演時間・方法など）
4. 配信の仕方・時期
5. 役割分担
6. 広報（リピート希望者への案内、チラシなど）

9月6日 役員会（ラフレさいたま）

※新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言の延長のため、中止

第49回集談会（ラフレさいたま＋Web）※ハイブリッド形式

1. 一般演題

- ①「小児の人中に生じた原発性皮膚CD30陽性リンパ増殖異常症の1例」
水野謙太¹⁾、田中 亨²⁾、中澤温子³⁾、出光俊郎^{1, 4)}、梅本尚可¹⁾、
(自治医科大学附属さいたま医療センター 皮膚科¹⁾、同大学 病理診断科²⁾、
埼玉県立小児医療センター 臨床研究部³⁾、上尾中央総合病院 皮膚科⁴⁾)
- ②「アトピー性皮膚炎患者の外陰部に生じた有棘細胞癌の一例」
増尾妃那子 獨協医科大学埼玉医療センター
- ③「顔面に多発するケラトアカントーマの一例」
五明美樹 獨協医科大学埼玉医療センター
- ④「頭部・顔面と下腿にpalpable purpuraが出現したIgA血管炎の一例」
吉田幸代 埼玉医科大学病院
- ⑤「難治性の関節症状と乾癬様皮疹を示した掌蹠膿疱症の1例」
並里まさ子 おうえんポリクリニック

2. 健保Q & A

3. 特別講演

『コレクチム軟膏をめぐる疑問に答えます』

NTT東日本関東病院 皮膚科 部長

五十嵐敦之 先生



皮膚科医会（五十嵐敦之先生）（2021.9.6）

9月15日 第1回女性会員活性化委員会（WEB会議）

1. 令和3年「彩たまでるま」について
2. 今後のスケジュールの確認
3. 特別講演、座長について

10月1日 「皮膚の日」市民公開講座（WEB配信）

～12月31日 テーマ『今年も コロナに負けるな！！スキンケア』

講演Ⅰ「手荒れ・マスク荒れから皮膚を守ろう！正しい知識とスキンケア」

済生会川口総合病院 皮膚科主任部長 高山かおる 先生

講演Ⅱ「治る！アトピー性皮膚炎の最新治療と

患者歴60年の皮膚科医が伝える治療・生活のコツ」

獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科教授 片桐一元 先生

9月6日 第1回広報委員会（Web会議）

1. 会誌発行について
 - ①前号の反省（問題点、改善点）
 - ②原稿・広告依頼
 - ③目次
 - ④今後のスケジュール
2. ホームページの運用
3. メールマガジンの運用

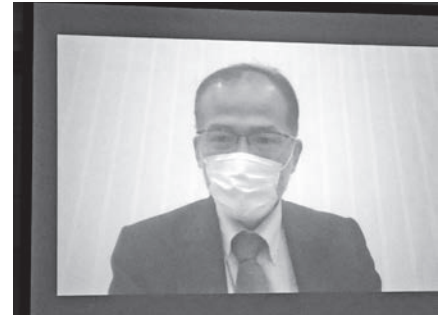
11月21日 第2回役員会（ラフレさいたま）

1. 2021年度第1回役員会議事録の承認
2. 学術委員会からの報告
3. 皮膚の日委員会からの報告

4. 広報委員会からの報告
5. 健保委員会からの報告
6. 女性会員活性化委員会からの報告
7. 日臨皮委員会からの報告
8. 埼玉県医師会学校医会常任理事の推薦の報告
9. 第51回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会への協賛について
10. 次期会長候補者推薦委員会設置の件
11. 医学会総会の演題募集について
12. 今後の行事予定について

2021年「皮膚の日」学術講演会・第66回一枚会
(ラフレさいたま)

1. 第66回埼玉県一枚会 症例検討
2. 健保Q & A
3. 特別講演 【長崎県から配信】
「アトピー性皮膚炎診療の新世紀：
病態理解と治療の進化」
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
皮膚病態学分野教授 室田浩之 先生



皮膚科医会（室田浩之先生）(2021.11.21)

2022年

- 1月23日 第5回彩たまでるま（ハイブリッド方式、浦和ロイヤルパインズホテルより配信）
「上顎骨、下顎骨の骨密度減少から考える顔面筋トレーニングについて」
宝田歯科医院 宝田恭子 先生
「実症例から考えるデュピルマブのポジショニング
～全身療法を使い分けと適切な導入時期について～」
荻窪病院副院長 布袋祐子 先生

第2回女性会員活性化委員会 「第5回彩たまでるまについて」

1. 時期、時間帯
2. 会場、開催方式
3. 共催メーカー
4. 教育後援の講師、内容についての要望
5. 特別講演の講師、内容についての要望
6. 座長
7. 次回の委員会

2月13日 埼玉県皮膚科医会学術講演会（ラフレさいたま）

1. 健保Q & A
2. 特別講演 【熊本県から配信】
『経口抗真菌剤ホスラブコナゾールによる
爪真菌症の治療』
のぐち皮膚科 院長 野口博光 先生



皮膚科医会（野口博光先生）(2022.2.13)

2月27日 第59回埼玉県医学会総会（Web配信）

- ①「急性汎発性腹膜炎術後創感染 (SSI) で生じた潰瘍に対するmicrograftの治療経験」

今村 駿¹⁾、油井佐恵子¹⁾、箕浦宏之²⁾、馬場香子¹⁾、高橋禎人²⁾、佐藤之俊³⁾
(北里大学メディカルセンター形成外科¹⁾、同 外科²⁾、同 呼吸器外科³⁾)

②「還暦を超えた異所性蒙古斑患者へのレーザー治療」

深井孝郎 羽生整形外科病院 形成外科

③「チーム医療で支える党員の褥瘡加療の取り組み

ー退院後も切れ目のない質の高い医療を継続するための包括的な支援ー」

野中由紀子¹⁾、西村直久²⁾、犬飼敏彦³⁾

(西部総合病院 皮膚科¹⁾、同 循環器内科²⁾、同 糖尿病内科³⁾)

④「寛解後、突然の吐血によって急逝したStevens-Johnson syndromeの1例」

田中大暉(研修医)¹⁾、松本崇直²⁾、平田桃子³⁾、湯澤 基⁴⁾、中島幸彦⁵⁾、
出光俊郎²⁾、梅本尚可²⁾

(自治医科大学附属さいたま医療センター¹⁾、同 皮膚科²⁾、同 腎臓内科³⁾
同 呼吸器内科⁴⁾、同 眼科⁵⁾)

⑤「M蛋白血症を伴ったびまん性扁平黄色腫の1例」

石井久実佳(研修医)¹⁾、福井伶奈²⁾、梅本尚可²⁾、賀古真一³⁾ 出光俊郎²⁾
(自治医科大学附属さいたま医療センター¹⁾、同 皮膚科²⁾ 同 血液科³⁾)

3月11日 第2回広報委員会(Web会議)

1. 会誌編集について

①投稿原稿のチェック(問題点の解決)

②特集、未投稿原稿の催促など

③掲載広告の現状と今後の対策

④今後のスケジュール

2. ホームページの更新について

3. メールマガジンの運用

4月12日 2022年度第1回皮膚の日委員会(Web会議)

1. 前回の反省点、改良点の検討

2. 開催方法(on-site? web?)

3. テーマと講演(講師・講演時間・方法など)

4. 配信の仕方・時期

5. 役割分担

6. 広報(リピート希望者への案内、チラシなど)

広報委員会報告

委員長 齋藤 京

広報委員会は、埼玉県皮膚科医会の活動内容を発信するとともに、会員同士で情報を共有・交換し、交流を深めることを目的に活動しております。主たる活動は、ホームページの運用、メールマガジンの配信、そして会報の出版です。

ホームページに関しては、委員会設立当初から力を入れています。見やすい画面デザインは好評ですし、アクセス数も多いです。ただ、疾患の紹介「皮膚病の話」は、時代に合わせて内容を更新しようと心掛けてはいますが、なかなか進んでおりません。今年は、大幅な改訂とはいかないまでも順次整った項目から更新するように方針を替え、作業を徐々に進めています。

メールマガジンは年4回配信を続けております。主に皮膚科医会の行事前の発信となっていて、リマインドメールの役割も果たしています。内容も新しい情報が多く、見るのを楽しみにしている先生も多いと思われます。メールマガジンは、町野先生にご尽力頂いており、今年も引きお願いしております。どうぞ、宜しくお願いします。

会報に関しては、今回で10号の出版となります。10年という単位は長くもあり短くもあります。その間にはっきりとした大きな転換が起きた方もいれば、大波はなく振り返ってみなければ気が付かなかった変化が見つかる方もいる期間です。今年度の会報の特集は、「振り返る、この10年」というタイトルとして、諸先生方に投稿をお願いしております。

私ごとになりますが、本年度から広報委員長を前任寺木祐一先生から引き継がせていただいております。活発な広報活動ができるよう頑張りたいと思います。是非とも宜しくお願い致します。

以上、令和3年度の広報委員会の活動を報告しました。

令和3年度に以下の委員会を開催しました。

第1回広報委員会 令和3年10月17日 Zoomにてweb開催

第2回広報委員会 令和4年3月11日 Zoomにてweb開催



zoom会議

健保委員会報告

健保委員会からの報告

委員長 田沼 弘之

令和3年、4年共に新型コロナウイルス感染症の影響で委員会が一度も開催されませんでした。そのため今回は令和4年度診療報酬改定の概要、保険診療上の問題点などについて報告します。

1. 令和4年度診療報酬改定について 医科診療報酬全体では0.26%の微増ですが薬価が1.35%減額されました。そのため、院外処方では不変もしくは微増ですが、院内処方では数%の減額になるようです。詳細は日臨皮健保委員会において3月診療分のレセプトについて比較検討することになっております。

新設された項目は下記のごとくですが施設要件、届出、研修会の出席などを課せられているものもありますので必ず今一度ご確認ください。

主な新設項目 情報通信機器を用いた場合の初診料、再診料、皮膚科特定疾患指導管理料、在宅自己注射指導管理料、下肢創傷処置管理料、リフィル処方箋、下肢創傷処置、白癬菌抗原定性、SCCA2などですが、詳細は医科診療報酬点数表や日臨皮ホームページで確認して下さい。また、疑似解釈については今後随時厚労省より指示があるとのことでした。

2. 社会保険支払基金における審査状況 令和3年10月よりAIの導入により審査状況がやや異なってきました。今年の10月から栃木県と同じブロックで審査されることになります。また、2年後を目処に審査基準を全国的に統一する方向で毎月協議されています。5月からは皮膚科領域においてもワーキンググループが形成され、随時協議される予定です。

査定、返戻事項が目立つ項目は以下のごとくですので提出前には必ず医師自ら確認の上お願いいたします。医療機関からの再審査請求に関しては傷病名の追加は一切認められていません。カルテのコピーなど明らかに医療行為を行った証拠が示されない限り、認められない傾向にありますので充分留意して下さい。

査定、返戻の目立つ項目 初診の算定基準、皮膚科特定疾患指導管理料、抗アレルギー薬、抗菌薬、抗真菌薬の外用と内服の併用、ヘパリン類似物質、各種外用薬の混合、創傷処置、特異的IgE、TARC、HbA1c、KL-6、超音波などが挙げられます。

詳細については埼玉県皮膚科医会開催時に随時解説していますので必ず出席して下さい。

皮膚の日委員会報告

委員長 中捨 克輝

第11回の開催となる皮膚の日市民公開講座は2021年11月7日に「埼玉会館」での開催を予定していましたが、2019年末からの新型コロナウイルス感染症の流行により人の移動や密集を避ける必要がある状況が続いております。ワクチン接種等による対策は進んでいるものの、委員会開催時点では第4波の流行拡大中であり、第5波がいつ来るのか予測ができない状態で、1年開催が延期された「東京オリンピック2020」後にさらなる感染拡大が起こるのではと危惧されていた中での開催検討を強いられました。皮膚の日委員会では昨年度と同様、市民公開講座の1：中止、2：参加人数を減らしての開催、3：動画配信を用いたweb開催について検討しました。結論としては昨年と同様、不確定な状況での現地開催は難しいと考えYouTubeを用いた動画配信という形で開催を決定いたしました。

2021年の講演テーマは「今年もコロナに負けるな!!スキンケア」としました。演題は済生会川口総合病院皮膚科の高山かおる先生に手荒れ、マスク荒れをはじめとしたスキンケアを、獨協医科大学埼玉医療センター皮膚科の片桐一元教授にアトピー性皮膚炎についてご講演いただくことに決定しました。会の詳細については別途市民公開講座の報告をご参照ください。

例年行っていた企業展示やお肌のトラブル相談は今回も中止としました。2022年の開催についても、会場を埼玉会館で確保しておりますが、開催の内容については今後検討する予定としております。

令和3年度に以下の委員会を開催しました。

- 第1回皮膚の日委員会 2021年6月29日 Zoomにてweb開催
- 第2回皮膚の日委員会 2021年7月16日 Zoomにてweb開催

女性会員活性化委員会報告

委員長 高山かおる

「第5回彩たまでるま」を開催。

開催日：令和4年1月23日（日）（同日に委員会も開催）

共 催：サノフィ株式会社

ハイブリッド方式、配信会場：ロイヤルパインズホテル浦和

- 特別講演1 「上顎骨、下顎骨の骨密度減少から考える顔面筋トレーニングについて」
宝田歯科医院 宝田恭子先生
- 特別講演2 「実症例から考えるデュピルマブのポジショニング
～全身療法の使い分けと適切な導入時期について～」
荻窪病院副院長 布袋祐子先生

参加人数はこれまでに中에서도っとも多い26名のご参加がありました。

宝田先生には実践を交えて、ほうれい線が目立たなくなるマッサージをおしえてもらいました。少しでもアンチエイジングになればとおもって楽しく聞いていましたが、大変感銘したのは入れ歯があわなくなるのはあごがやせてしまうからなのですが、あごの骨粗鬆症を防ぐには奥歯で均等によく噛むことだそうで、それを意識したインプラントや治療を行い。さらに食べ物を噛む姿勢の指導などを行うことさえあるそうです。歯科では予防したほうがよいとわかっている診療をするのは当たり前だとお話されていました。

布袋先生はアトピー性皮膚炎の外用プロアクティブ療法からデュピクセントの導入方法、効果、そして新規JAK阻害の内服薬についてなど、日常されている診療をわかりやすくお話してくださいました。豊富な臨床経験をもとにしたお話しは説得力があり、すぐにでも役立ちそうな内容ばかりで多くのご質問をいただきました。

来年度の「第6回彩たまでるま」について

- 予定：時期、時間帯は例年と同じが良いとの意見が多く、2023年、1月下旬から2月の日曜日、午後2時ごろから開催。
- 内容：webで聞くとときに1題1時間は長いので40分くらいでの講演でどうかという案が出ています。現時点での候補はマルホ株式会社
- 教育講演の講師、内容についての要望
女性の脱毛症、（順天堂大・植木理恵先生etc）
- 特別講演の講師、内容についての要望
 - ・ 審美歯科
 - ・ 外傷瘢痕・血管腫などのメイク
 - ・ 更年期のメンタルケア
 - ・ 美容医療のトレンド

◆ 2021 年 第12回「ひふの日」市民公開講座

和光市・独立行政法人国立病院機構 埼玉病院 中捨 克輝

日 時：2021年10月1日(日)～12月31日(月) YouTubeでweb開催

テーマ：『今年もコロナに負けるな!! スキンケア』

講演1：「手荒れ・マスク荒れから皮膚を守ろう！正しい知識とスキンケア」

済生会川口総合病院 皮膚科主任部長 高山 かおる先生

講演2：「治る！アトピー性皮膚炎の最新治療と患者歴60年の皮膚科医が伝える治療・生活のコツ」

獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科教授 片桐一元先生

埼玉県皮膚科医会のYouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/c/Saitamahifuka/>

埼玉県皮膚科医会のTwitterアカウント

<https://twitter.com/Saitamahifuka>

例年さいたま市内で行っていた市民公開講座ですが、昨年に引き続きweb開催となりました。1ヶ月間公開した昨年の経験から、より多くの方に視聴していただけるよう今回は10月1日～12月31日まで3ヶ月間の配信としました。講演は演者の先生方に事前に収録していただいた動画を用いて埼玉県皮膚科医会のYouTubeアカウントで公開しました。当アカウントも昨年の市民公開講座後から分かりやすいカスタムURLが使用できるようになりました。<https://www.youtube.com/c/Saitamahifuka/>

演題は2題、済生会川口総合病院皮膚科主任部長 高山かおる先生より「手荒れ・マスク荒れから皮膚を守ろう！正しい知識とスキンケア」としてコロナ感染対策、コロナ流行に伴い増加している手荒れ、マスク荒れの対策をご講演いただきました。もう1題は獨協医科大学埼玉医療センター皮膚科教授 片桐一元先生に「治る！アトピー性皮膚炎の最新治療と患者歴60年の皮膚科医が伝える治療・生活のコツ」としてご自身の経験も通したアトピーとの付き合い方、生活指導、新しい治療法などについて非常に熱血なご講演をいただきました。

例年約300人が参加されている当会の市民公開講座ですが、1ヶ月間の公開中に各講演それぞれ約560回の視聴回数がありました。動画編集は筆者が担当しましたが、アンケートへの回答のお願いやアニメーション、効果音の追加など、通常の講演ではあまり見慣れない工夫もさせていただきました。昨年より再生回数は増加し、公開期間の延長、動画編集なども一定の効果があったと思われました。TwitterのアカウントでのPRも「少しだけ」集客に寄与したと思います。来年の開催形式は未定ですが、この2年間の経験を元に埼玉県内にとどまらずもっともっと多くの方々に視聴いただけるようにしていきたいと思っております。

手荒れ・マスク荒れから皮膚を守ろう！ 正しい知識とスキンケア

済生会川口総合病院 皮膚科 高山かおる 先生



はじめに

コロナ禍、マスクによる皮膚トラブル、手指消毒による手荒れがふえています。皮膚の正しい知識とスキンケアで、健康な皮膚をまもりましょう。これらのトラブルは些細なことにおもえるかもしれませんが、皮膚のバリア機能異常を引き起こし、荒れた皮膚からの雑菌やウイルスの侵入をゆるしてしまいます。

1. マスク荒れ

長時間の着用でかゆみがでたり、にきびがひどくなったりなどの症状が増えています。

その1 かゆみ

マスクをしているとそのこすれる刺激から頬部やあごの部分に湿疹が起き痒みがでます。ある海外の研究によるとマスク着用の20%のひとが痒みを感じているということです（(Acta Derm Venereol. 2020 May 28; 100 (10): adv00152. doi: 10.2340/00015555-3536.)）。

その2 ニキビ

ニキビは毛穴の出口が角質の蓋（角栓）でつまってしまうことで、皮脂が皮膚の外に排泄されず炎症を起こすことで生じます。マスクをしていると角栓ができやすくなること、マスクが常にニキビのできている部分を触る刺激となり炎症を起こすことが原因と考えられます。

トラブル対策

マスクの刺激をさけるために、話すために口を動かすときにマスクがうごいて擦れないようにする必要があります。マスクはある程度余裕のある大きさで、立体的な形のものを選ぶ。ひだがついているものはしっかりひろげて、自分の顔にあわせて着用する。耳にかかる部分はきつすぎないように紐やゴムの長さを調整します。なによりぴたっと顔の形にあったマスクをすることは感染対策そのものです。

2. 手荒れ

手は洗いすぎと消毒薬による刺激のために皮膚炎を起こします。

その1 手洗い

手を洗うときにはよく洗剤を泡立て、泡を転がすように洗います。こすりすぎたり、洗剤を濃い濃度のまま使ったりすると手荒れの原因になります。感染対策の観点から頻繁に手を洗うことが増えていますが、手荒れがおこると、かえって細菌やウイルスが皮膚の中に入りやすくなるので注意が必要です。

その2 消毒薬

手指消毒薬は主にエタノールでできています。エタノールは殺菌作用の強さから推奨されていますが、使用により皮膚は乾燥したり、刺激性の皮膚炎を生じたりします。

トラブル対策

手を洗うときにはぬるま湯をつかい、よく水気をふきとり、そして洗浄後1FTUをまもった量の保湿薬でうるおすことが大切です。アトピー素因などをお持ちで手荒れのリスクの高いかたは、

エタノール濃度の低い、もしくはエタノールフリーの消毒剤を使うといいと思います。手指消毒薬の中には保湿剤が含有されているものがありますので、なるべく手に優しいものを選択するようにしましょう。

さいごに

皮膚のバリアは外界刺激や感染症からのバリア機能を担っています。正しいスキンケアでコロナ禍を乗り切るとともに、今後のスキンケアの参考になれば幸いです。

治る！患者歴60年の皮膚科医が伝える アトピー性皮膚炎の最新治療と生活のコツ



獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科 片桐 一元 先生

アトピー性皮膚炎は乳児から高齢者まで、幅広い年齢層に発症し、重症者では年余にわたり症状が持続します。治療は、ステロイド薬の外用が中心となりますが、それだけでは十分な効果が得られない患者や、一旦改善してもすぐに再燃を繰り返す患者も多いです。また、中には、ステロイド外用薬の副作用を心配するあまり、本来であれば軽症で維持できるはずが、重症になってしまう患者もいます。

この講演では、アトピー性皮膚炎のことを一般の方にできるだけ正確に理解していただきたいと思いスライドを作成しました。YouTube視聴を前提に作成したものの、長くなってしまい、2部（後半をさらに2分割）に分けることになりました。全般的に、一般の方には内容がやや難しいかもしれません。しかし、アトピー性皮膚炎の治療は、患者自身が自宅で、自分の症状に応じて自分で判断し、実施する必要があります。再燃を繰り返す中等症以上の患者には、どのような疾患であるか理解し、皮膚症状をどの様に考え、どの治療を選ぶのか、が上手にできるようになっていただきたいと思います。また、これは多くの医師、皮膚科医にも理解していただきたい基本的知識であり、治療に役立てていただきたいとの思いもあります。長くなり申し訳ありませんが、是非一度ご視聴いただきたいと思います。

第1部では、主に重症・難治の患者に向けて「治せる薬」として、3年前に登場したデュピクセント®を筆頭に、オルミエント®、リンヴォック®を効果の高い治療薬として紹介するとともに、その作用点が、アトピー性皮膚炎の特徴である、「強いかゆみ」を抑えることにあることを示しました。また、アトピー性皮膚炎がどのような疾患か（基本病態とアロネーシス：わずかな刺激で生じるかゆみ）と皮膚症状としての「湿疹」「痒疹」「乾燥肌」の見分け方、皮膚症状に応じた治療の選び方を提示しました。

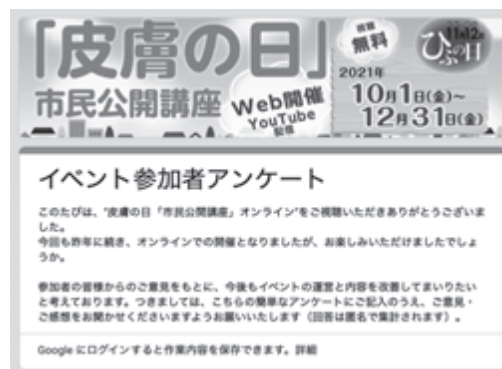
第2部では、ステロイド外用薬の副作用の正しい知識から始まり、具体的な外用療法、身の回りにある様々な悪化因子（掻破、衣類の刺激、温まることで痒くなる、汗、日光、季節変動、特に春に悪化しやすい、入浴習慣、かぶれ、ストレスなど）について、皮膚科医として、さらには、自分自身がアトピー性皮膚炎患者であることで身につけた治療や生活のコツを紹介させていただきました。

最後に、スライド用の資料をYouTubeに変換する作業をしていただいた国立病院機構埼玉病院、中捨克輝先生に深謝いたします。

市民公開講座参加者アンケート結果報告

春日部市・さくら皮フ科 横井 清

2021年「ひふの日」市民公開講座に参加された方々にアンケートをお願いし集計しましたので報告します。このアンケートは2014年より開始され、性別、年齢、居住地、参加回数、認知媒体、満足度、次回参加および案内状送付希望の有無について回答していただいています。2020年は初めてのWeb開催のためか、14件の回答しか得られませんでした。今回は、中捨先生のご報告にあるようにアンケート回答のお願いやアニメーションや効果音などを追加した工夫が功を奏し、36名の方の回答が得られました。



昨年のWeb開催の回答結果との比較よりは、2019年のさいたま市民会館うらわで開催した結果との比較が今後のためには有用と思われるので、鍵括弧【】中に2019年の結果を表示しました。

性別の回答では、男性は9/35名(26%)（無回答1名）で例年どおりでした(図1)。年齢分布(図2)では、30代～50代の方が大半を占めていました(72%)【60代と70代で50%】。Web開催では当然のことながら、明らかに視聴者が若い方々にシフトしております。

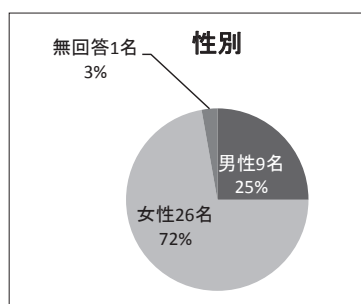


図1

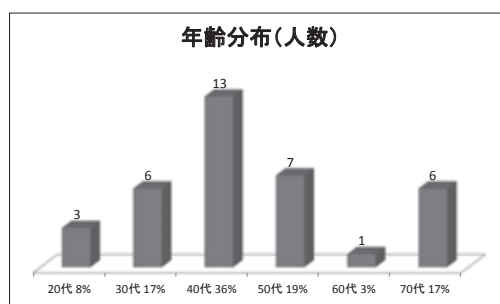


図2

居住地(図3)では、初めてさいたま市外在住の方が、市内の方を上回りました(64%)【市外は38%】。市外からの参加者では、春日部市が13名と圧倒的に多く、その全員が病院のチラシあるいは主治医からの紹介でありました。これは矢島純先生の積極的勧誘のおかげと思われます。参加回数(図4)では「初めて」の方が70%だが「3回以上」の方が19%でした【初めてが54%、3回以上が27%】。

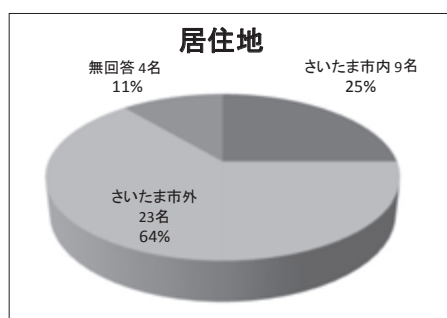


図3

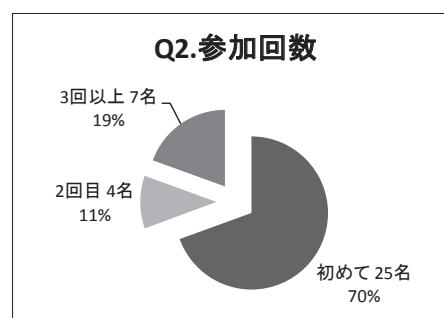


図4

次の認知媒体（図5と6）は「病院のチラシ」58%と「案内状」17%が大半を占め、「埼玉県皮膚科医会のホームページ」が11%でした。2019年の結果は【案内状43%と病院のチラシ31%】。この結果をどう解釈すればいいのか難しいですが、郵送で案内状を受け取った高齢の方々は、YouTubeに接続できていないことが考えられます。

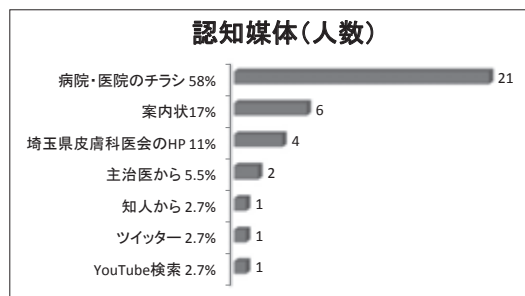


図5

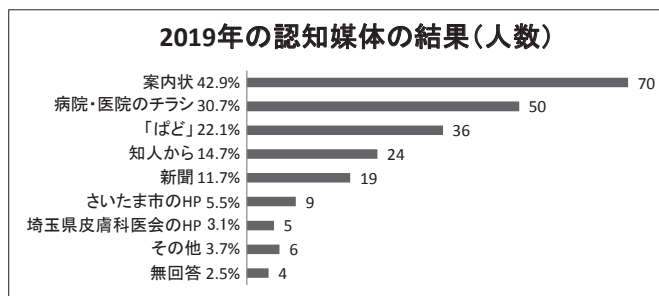


図6

今後希望する講演内容（図7）は、今回は演題内容が接触性皮膚炎とアトピー性皮膚炎であり、これらの疾患に関心がある方が多かったためか、「アレルギー」と「アトピー性皮膚炎」が上位を占めました。

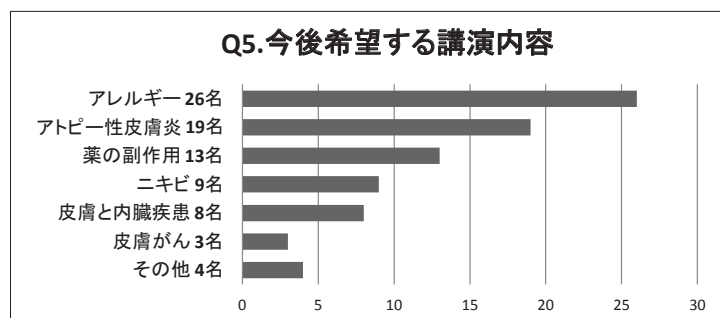


図7

満足度（図8）は図のような結果で、2019年【満足53%、ほぼ満足34%】とほぼ同様でした。中捨先生のご指摘によれば、平均再生率（動画をクリックしたユーザーが動画の視聴を続けた割合）は28%だそうですので、途中で視聴を止めた方々の評価はもっと厳しいものと思われます。

次回参加（図9）は、ほぼ全員から「参加したい」との回答をいただきました【参加したい87%、何とも言えない7%】が、18/36人の方が「Web開催なら参加したい」と回答されています。コロナ禍が終息したとしても、ハイブリット開催が望ましいのかも知れません。次回案内状送付の承諾（図10）に「いいえ」と答えられたのはすべて30～50代の方で58%に達しました【はい73%、いいえ15%】。最近のネットユーザーは個人情報の開示に極めて慎重であることが窺われました。

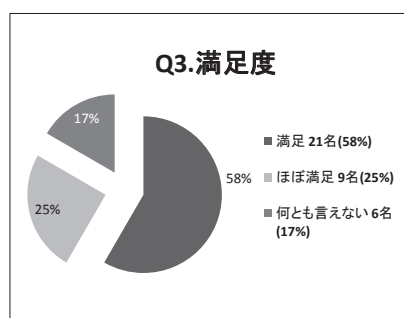


図8

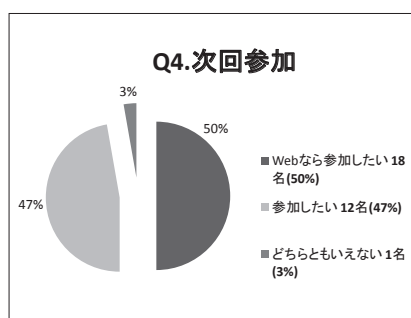


図9

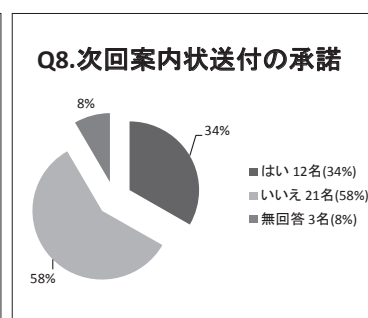


図10

2021年度 埼玉県皮膚科治療学会 事業報告

埼玉県皮膚科治療学会

会長 片桐 一元

1. 総会ならびに学術大会

2021年2月14日（日）、於 ラフレさいたま

役員会

2021年度総会

第53回埼玉県皮膚科治療学会

話題の薬剤ーその効果と副作用

座長 自独立行政法人国立病院機構 埼玉病院 中捨 克輝先生

「ルミセフ®皮下注210mgシリンジの新たな適応症：

強直性脊椎炎, X線基準を満たさない体軸性脊椎関節炎」

(埼玉医科大学 宮野 恭平先生)

2021年11月21日（日）、於 ラフレさいたま

役員会

第54回埼玉県皮膚科治療学会

話題の薬剤ーその効果と副作用

座長 独立行政法人国立病院機構 埼玉病院 中捨 克輝先生

「原発性腋窩多汗症における新しい治療薬」 (町野皮膚科 町野 哲先生)

「セルトリズマブペゴルの使用経験」 (埼玉医科大学総合医療センター 高村さおり先生)

「小児用コレクチム®軟膏0.25%を使ってみよう！」

(自治医科大学附属さいたま医療センター 梅本 尚可先生)

2021年1月

常任理事会（メール会議）

2. アンケート調査

今年度の活動はなかった

令和3年度 大宮皮膚科医会活動報告

大宮皮膚科医会 会長 石田 卓

2年越しのコロナ禍に見舞われた令和3年度は、令和2年度に中止や延期となった学術講演会を含め全7回の学術講演会を開催致しました。当初はオンライン開催に違和感がありましたが、2年目となると先生方も積極的にオンライン開催に参加頂きました。ありがとうございました。また、共催頂いた製薬会社には、コロナ禍で制約も多い中でのご支援に感謝しております。

昨年度は「コロナ慣れ」による気の緩みからか、同じマスクを不潔なままの使い回しによる皮膚のトラブルが報告されました。マスクを使い続けることで内側の汚れ（汗やファンデーション等の付着）によるかぶれや皮膚炎が増えてきています。コロナが収束して日常生活からマスクの必要性がなくなるまでは、「たかがマスク、されどマスク」。適切なマスクの着用を皮膚科医からのお願いとして先生方からもご指導の程宜しくお願い致します。

令和4年度におきましても、会員各位のご理解ご協力のもと、また出光俊郎先生をはじめとする自治医科大学附属さいたま医療センターの先生方のご指導を仰ぎながら、有益な学術講演会の開催と医会の一層の結束を図って行きたいと思っております。

以下、令和3年度の大宮皮膚科医会の活動を報告いたします。

■新入会員

令和3年11月16日 梅本尚可先生（自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科）

令和3年4月1日 平野宏文先生（総合クリニックドクターランド大宮）

■学術講演会

1. 大宮皮膚科医会学術講演会（4月2日より延期）

日 時 令和3年4月8日（木）午後7時30分

場 所 パレスホテル大宮 3階チェリールーム東

演題①

演 題 「2010年代、皮膚科学激動の裏で何が変わったか？

～アトピー性皮膚炎を中心に～」

講 師 東京医科大学八王子医療センター皮膚科教授 梅林芳弘先生

座 長 いしだ皮フ科 石田 卓先生

演題②

演 題 「虎の威を借り40年

～レジェンドから学んだクリニカルパール～」

講 師 上尾中央総合病院 皮膚科 科長

自治医科大学附属さいたま医療センター客員教授 出光俊郎先生

座 長 自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科 講師・科長 梅本尚可先生



梅林先生



出光先生

2. さいたま市4医師会大宮皮膚科医会講演会

日 時 令和3年5月15日（土）午後5時30分

場 所 ラフレさいたま 4階 桃の間

座 長 上尾中央総合病院 皮膚科 科長 出光俊郎 先生
演 題 「アトピー性皮膚炎の治療と地域医療連携の今後」
講 師 JA茨城県厚生連総合病院 水戸協同病院
皮膚科 部長 田口詩路麻 先生



田口先生

3. 大宮内科医会・大宮皮膚科医会合同学術講演会

日 時 令和3年6月29日（火） 午後7時30分
場 所 大宮ソニックシティ 8階 805会議室（WEB）
座 長 健英会鈴木医院 院長 鈴木英彦 先生
演 題 「皮膚科医目線のフットケア～歩ける未来へ～」
講 師 順天堂大学医学部附属浦安病院 皮膚科
准教授 木村有太子 先生



木村先生

4. 第5回医学講座（大宮医師会との共催）

日 時 令和3年9月8日（水） 午後7時30分
会 場 WEB開催
座 長 いしだ皮フ科 院長 石田 卓 先生
演 題 「带状疱疹・単純疱疹の治療戦略」
講 師 聖隷三方原病院 院長補佐 皮膚科部長 白濱茂穂 先生



白濱先生

5. 大宮外科医会・大宮皮膚科医会合同学術講演会

日 時 令和3年10月25日（月） 午後7時30分
場 所 大宮ソニックシティ 6階 604会議室（WEB）
座 長 松本皮膚科形成外科医院 院長 松本吉郎 先生
演 題 「形成外科の初診～
どんな時に紹介状なしで形成外科を受診したいと思うか～」
講 師 防衛医科大学校病院 形成外科 教授 清澤智晴 先生



清澤先生

6. 大宮皮膚科医会学術講演会 ～乾癬地域連携の会 in さいたま～

日 時 令和3年11月4日（木） 午後7時30分
場 所 TKP大宮西口カンファレンスセンター 5F ホール5A（WEB）

特別講演

座 長 さいたま市立病院 皮膚科科長 齋藤 京 先生
演 題 「膿疱性乾癬と掌蹠膿疱症における私のbio製剤の使い方」
講 師 藤田医科大学医学部 皮膚科学 教授 杉浦一充 先生



杉浦先生

ディスカッション

司 会 自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科 講師・科長 梅本尚可 先生

テーマ 「掌蹠膿疱症の地域連携について」

ディスカッサント 石田 卓 先生（いしだ皮フ科）・秋元幸子 先生（あきもと皮フ科クリニック）

内ヶ崎周子 先生（いとう医院）・山田朋子 先生（さいたま北部医療センター）

コメンテーター 藤田医科大学医学部 皮膚科学 教授 杉浦一充 先生

7. 大宮皮膚科医会学術講演会

日 時 令和4年1月13日（木） 午後7時30分

場 所 パレスホテル大宮 3階 銀杏（WEB）

座 長 自治医科大学附属さいたま医療センター皮膚科

講師・科長 梅本尚可 先生

講演①

演 題 「全身療法施行中の乾癬患者における
外用療法の重要性」

講 師 自治医科大学附属さいたま医療センター
皮膚科 福井伶奈 先生



福井先生

講演②

演 題 「乾癬治療におけるドボベットフォームの可能性
-乾癬治療の最近の話題-」

講 師 さいたま北部医療センター皮膚科
医長 山田朋子 先生



山田先生

県内地域別医会の紹介

本庄児玉皮膚科勉強会

恵南クリニック 佐々木 亮

本庄児玉皮膚科勉強会は、今年度報告すべき活動はありませんでした。

埼玉県東部皮膚科懇話会：令和3年の活動報告

獨協医科大学埼玉医療センター皮膚科
主任教授 片桐 一元

本会は、獨協医科大学埼玉医療センター皮膚科と当科へ患者をご紹介頂く先生方を中心とした病診連携及び皮膚科診療レベル向上を目的とした勉強会です。通常は年3回開催していますが、コロナ渦により延期、中止となり、本年は下記のように1回のみWEBで開催いたしました。例年行っている紹介患者報告ができず申し訳ありませんでした。その代わりにはなりません、WEBでの講演会は製薬会社の誘導もあり、多く担当させていただきました。製剤のPR主体の講演会も多く、特定の領域に偏ってはいますが、許される限り多様な内容の講演を企画させていただきました。令和4年も同じような状況が続くと思いますが、少しでも興味を持てるような企画を検討していきたいと考えています。直接意見を交わせる機会が一刻も早く来ることを願うばかりです。

第26回 令和3年2月25日（木）19：00開始

会 場：越谷コミュニティセンター（サンシティホール）よりWEB配信

参加者：25名（医師：13名）

【主催】アムジェン株式会社

【講演】

「アトピー性皮膚炎治療として埋入された金糸により生じた多発性環状肉芽腫について」

獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科 山下大樹 先生

「治療に難渋しているEosinophilic annular erythemaについて」

獨協医科大学埼玉医療センター 皮膚科 杉田 淳 先生

【特別講演】

「現代乾癬におけるクリニックのあり方 -乾癬をサポートする-」

猿渡ひふ科クリニック 院長 猿渡 浩 先生

春日部皮膚科勉強会

春日部ヒフ科 矢島 純

春日部皮膚科勉強会は、今年度報告すべき活動はありませんでした。

“川越 Dermatology Club” 事業報告（2021年度）

埼玉医科大学総合医療センター皮膚科
教授 福田 知雄

川越 Dermatology Club は、埼玉医科大学総合医療センター皮膚科医局の若手医師の専門医教育ならびに医局を巣立った医師の生涯教育のための勉強会として伊崎名誉教授が2002年（平成14年）に立ち上げ、年数回、50回以上開催されてきました。2017年から私が引き継ぎ、4月と12月の定期開催に致しました。その道の第一線で活躍している先生をお招きし、堅苦しくない家庭的で質問しやすい雰囲気の中での講演をお願いしています。

2021年4月22日に行われた第57回の講演会は、東邦大学医療センター大森病院皮膚科臨床教授の関東裕美先生をお招きし、『接触性皮膚炎と痒みについて』のご講演をウェブ配信で行って頂きました。この講演は、コロナ禍の影響を受け開催が1年遅れとなり、2021年度も感染拡大が収まらず開催が危ぶまれましたが、何とかウェブではありますが開催にこぎつけました。内容は、様々なものが原因となる接触皮膚炎についてで、その原因検索手段としてパッチテストを中心に、豊富な臨床経験に基づく診断と治療の現状を教えて頂きました。日常診療においてパッチテストが如何に有用か、また、本検査が患者の生活の質向上にどのように役立つのか、目から鱗の講演だったように思います。

第58回川越 Dermatology Club は、2021年12月16日に、慶応義塾大学医学部皮膚科の私の後輩で、本年より東京女子医科大学皮膚科准教授に就任した山上 淳先生に『類天疱瘡アップデート』のご講演をお願いしておりましたが、当方の事情で、急遽延期になりました。2月に開催予定で

が、この原稿を書いている1月中旬現在、コロナ患者数が急激な増加傾向に転じており、不安を感じています。2020年、2021年は多くの学会、講演会、勉強会が、中止、延期になりました。特に対面での開催はハードルの高い状況が続いています。我々の大学でも県を跨いでの学会、講演会、勉強会参加は禁止まではいかずとも、推奨されておりません。2020年度以降に入局した医局員はまだ一度も地方に行く機会がなく、正直かわいそうに思います。早く元の生活に戻ることを祈るばかりです。

県内地域別医会の紹介

浦和医師会皮膚科泌尿器科医会：令和3年の活動内容

あきもと皮膚科クリニック 秋元 幸子

本年度もコロナ禍のため、対面での会を催すことはできませんでした。5月にZOOMと現地のハイブリットで総会および齋藤先生による紹介患者の経過報告会（その後会）を行いました。製薬会社の関与しないWEBの会は初めてでしたが、浦和医師会の職員の方が助けてくださり、無事開催することができました。前年から繰り越され1月に予定していた浦和医学会総会は紙面報告という形になりました。

現状、製薬会社主導のWEB講演会が多数行われ、聴講者が必ずしも地域限定ではなくなったためか、講演会場の確保も不要になったためか、浦和地区中心としてお声がけいただく講演会でも、医師会の共催をとらずに行うものが増えました。その様なWEB講演会にだいぶ慣れ、その便利さを感じる一方で、対面で行う小さな会の大切さをより強く思うようになりました。新型コロナウイルス感染がどういう形で収束するのか、未だわからない状況ですが、いつか規制が緩和され、気楽に話のできる皮膚科泌尿器科医会に戻ることを願っています。

1. 浦和医師会医学会総会

演題：アムロジピンによると考えた毛細血管拡張症の2例

演者：さいたま市立病院 皮膚科 科長 齋藤 京 先生

浦和医師会報での紙面報告（浦和医師会報 737（10月号）：2021, 19～21）

2. 浦和医師会WEB学術講演会

日時：2021年2月26日

リモート開催

講演1：なにこれ？へえ 症例の供覧

～浦和医師会泌尿器科医会「その後会」のご紹介～

演者：さいたま市立病院 皮膚科 科長 齋藤 京 先生

講演2：そう痒を伴う皮膚疾患（接触皮膚炎を含む）の治療戦略と
よく経験する足爪疾患の治療戦略

演者：埼玉県済生会川口総合病院 皮膚科 主任部長 高山かおる 先生

3. 令和2年度総会および第18回「その後会」

日時：2021年5月19日

会場：浦和医師会館 講堂 および ライブ配信（ZOOMウェビナー使用）

講師：さいたま市立病院 皮膚科 科長 齋藤 京 先生

4. 浦和医師会学術講演会

日時：2021年10月22日

WEBライブ配信（ZOOMウェビナー使用）

演題：明日から使える皮膚疾患の漢方治療

講師：兵庫医科大学 皮膚科 教授 夏秋 優 先生

埼玉県皮膚科医会役員名簿

任期：2022年4月1日～2024年3月31日

役職名	氏 名	所 属
名誉会長	長 村 洋 三	長村皮膚科クリニック
会 長	仲 弥	仲皮フ科クリニック
副 会 長	町 野 哲	町野皮ふ科
〃	松 本 吉 郎	松本皮膚科形成外科医院
常任理事	梅 本 尚 可	自治医科大学附属さいたま医療センター
〃	片 桐 一 元	獨協医科大学埼玉医療センター
〃	齋 藤 京	さいたま市立病院
〃	田 沼 弘 之	田沼皮膚科医院
〃	寺 木 祐 一	埼玉医科大学総合医療センター
〃	中 捨 克 輝	国立病院機構埼玉病院
〃	中 村 晃一郎	埼玉医科大学病院
〃	横 井 清	さくら皮フ科
理 事	秋 元 幸 子	あきもと皮フ科クリニック
〃	石 田 卓	いしだ皮フ科
〃	石 塚 敦 子	石塚医院
〃	井 上 靖	井上皮膚科医院
〃	大 島 康 成	大島皮ふ科・形成外科
〃	小 宅 慎 一	おやけ皮膚科医院
〃	佐 藤 貴 浩	防衛医科大学校病院
〃	高 山 かおる	済生会川口総合病院
〃	坪 井 るみ子	島田医院
〃	常 深 祐一郎	埼玉医科大学病院
〃	中 村 和 哉	三愛会総合病院
〃	中 村 泰 大	埼玉医科大学国際医療センター
〃	端 本 宇 志	防衛医科大学校病院
〃	福 田 知 雄	埼玉医科大学総合医療センター
監 事	中 井 太 一	中井皮膚科医院
〃	矢 島 純	春日部ヒフ科医院
顧 問	伊 崎 誠 一	本町診療所
〃	石 橋 明	
〃	北 村 啓次郎	
〃	斎 田 俊 明	
〃	土 田 哲 也	埼玉医科大学病院
〃	出 光 俊 郎	上尾中央総合病院
〃	山 本 明 史	
参 与	竹 村 司	志木駅前皮膚科

埼玉県皮膚科医会各種委員会名簿

任期：2022年4月1日～2023年3月31日

学術委員会

委員長 委員	片桐一 梅本尚 中村晃 三石剛	元可一郎	佐藤貴浩 中村泰大	常深祐一郎 福田知雄	寺木祐一 町野哲
-----------	--------------------------	------	--------------	---------------	-------------

会則検討委員会

委員長 委員	矢島純 中井太一	福田知雄
-----------	-------------	------

健保委員会

委員長 委員	田沼弘之 井上靖 出光俊郎 松本吉郎	伊崎誠一 中村和一哉	小宅慎一 福田知雄	齋藤京 町野哲
-----------	-----------------------------	---------------	--------------	------------

地域医療学校保健委員会

委員長 委員	松本吉郎 玉城善史郎	古谷信隆	矢島純
-----------	---------------	------	-----

日臨皮委員会

委員長 委員	町野哲 梅本尚可 坪井るみ子	高中橋生世 捨捨克輝	田沼弘之 玉城善史郎
-----------	----------------------	---------------	---------------

広報委員会

委員長 委員	齋藤京 秋元幸 中捨克 矢島純	石人田 人見勝 横井卓 博清	梅本尚可 町野哲	寺木祐一 松本吉郎
-----------	--------------------------	-------------------------	-------------	--------------

皮膚の日委員会

委員長 委員	中捨克輝 内ヶ崎周子 坪井るみ子	梅本尚可 矢島純	久保和夫 横井清	鈴木咲江 吉永英司
-----------	------------------------	-------------	-------------	--------------

会員親睦委員会

委員長 委員	横井清 阿部稔彦 寺木祐一	入江広弥 中村考伸	大島康成 松本吉郎	佐藤良博 渡部利枝子
-----------	---------------------	--------------	--------------	---------------

在宅医療委員会

委員長 委員	坪井るみ子 秋元幸子 若旅功二	神野くらら	高橋生世	並里まさ子
-----------	-----------------------	-------	------	-------

女性会員活性化委員会

委員長 委員	高山かおる 秋元幸子 内ヶ崎周子	石塚敦子 坪井るみ子	伊藤恵子	伊藤理恵
-----------	------------------------	---------------	------	------

埼玉県皮膚科医会賛助会員 (32社)

	会 員 名	郵便番号	住 所	電話番号
ア	アクセース株式会社	104-0061	東京都中央区銀座4-8-10 PIAS GINZA	03-3564-5366
	アムジェン株式会社	107-6239	東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウンタワー	03-4563-8671
	アッヴィ合同会社	330-0854	さいたま市大宮区桜木町1-9-6 大宮センタービル 7階	03-4577-1143
	株式会社アブソルート	231-0032	神奈川県横浜市中区不老町1-1-5 横浜東芝ビル 4F	045-228-8885
	エーザイ株式会社	330-0854	さいたま市大宮区桜木町1-11-7 東通ビル 5F	048-647-9961
	大塚製薬株式会社	362-0022	上尾市瓦葺929-1	048-722-8534
カ	科研製薬株式会社	330-0844	さいたま市大宮区下町1-45 松亀センタービル 2階	048-650-3085
	協和キリン株式会社	350-1122	川越市脇田町18-6 川越小川ビル 1F	049-226-8400
	杏林製薬株式会社	330-0844	さいたま市大宮区下町1-45 松亀センタービル 8F	048-641-2050
	クラシエ薬品株式会社 関越医薬支店	330-0854	さいたま市大宮区桜木町1-11-9 ニッセイ大宮桜木町ビル 9階	048-645-5011
	株式会社ケイセイ	141-0022	東京都品川区東五反田5-27-5	03-5421-3787
	興和創薬株式会社	338-0001	さいたま市中央区上落合8-10-24	048-851-5154
	コヴィディエンジャパン株式会社	108-0075	東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス 22F	0120-998-971
サ	佐藤製薬株式会社	107-0051	東京都港区元赤坂1-5-27	03-5412-7818
	サノフィ株式会社	163-1488	東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー	0120-852-297
	サンファーマ株式会社	141-0031	東京都品川区西五反田8-9-5	03-5436-3251
タ	第一三共株式会社 埼玉支店	330-6033	さいたま市中央区新都心11-2 LAタワー 33F	048-600-2660
	大鵬薬品工業株式会社 川越出張所	350-1123	川越市脇田本町1-3 グランベル川越ビル 7F	049-238-7851
	田辺三菱製薬株式会社	330-0854	さいたま市大宮区桜木町1-10-17 シーノ大宮サウスウイング 15F	048-654-2911
	株式会社ツムラ	330-0854	さいたま市大宮区桜木町1-9-6 大宮センタービル 4F	048-647-5233
	常盤薬品工業株式会社 ノブ事業部	107-0062	東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館 17F	03-6634-5183
	鳥居薬品株式会社 関東信越支社	330-6023	さいたま市中央区新都心11-2 明治安田生命さいたま新都心ビル 23F	048-600-0171
ナ	日東メディック株式会社	104-0033	東京都中央区新川1-17-24	03-3523-0347
	日本臓器製薬株式会社 さいたま営業部	330-0843	さいたま市大宮区吉敷町4-261-1 キャピタルビル 5F	048-600-0661
	日本イーライリリー株式会社	330-6029	さいたま市中央区新都心11-2 明治安田生命さいたま新都心ビル 29F	048-601-2330
	ノバルティスファーマ株式会社	105-6333	東京都港区虎ノ門1-23-1 虎ノ門ヒルズ森タワー	0120-965-101
マ	マルホ株式会社 さいたま営業所	330-0802	さいたま市大宮区宮町2-35 大宮MTビル 4F	048-642-1954
	武蔵野調剤薬局グループ	270-0163	千葉県流山市南流山4-1-16	0471-58-0110
	Meiji Seikaファルマ株式会社	331-0813	さいたま市北区植竹町1-17-1	048-652-2611
	持田ヘルスケア株式会社	162-8451	東京都新宿区市谷本村町2-12 パックスビル	03-5229-7336
ヤ	ヤンセンファーマ株式会社	330-0061	さいたま市浦和区常盤1-3-10 日本生命浦和ビル 2F	0120-099-866
	ユーシービージャパン株式会社	330-8669	さいたま市大宮区桜木町1-7-5 ソニックシティビル 16F	048-640-4001

埼玉県皮膚科医会 会則

第1条 本会は、埼玉県皮膚科医会と称し、埼玉県医学会に所属する。

第2条 本会事務所は、埼玉県医師会内に置く。

第3条 本会は、次の目的のために必要な事業を行う。

- (1) 臨床皮膚科学の発展普及と社会福祉の増進
- (2) 社会保険診療の調査研究
- (3) 学術講演会の開催
- (4) 会員相互の親睦融和
- (5) その他必要な事項

第4条 本会の会員は、正会員と賛助会員とする。

1. 正会員は、原則として埼玉県において皮膚科診療に従事する医師。
2. 賛助会員は、本会の目的に賛同する正会員以外の個人、団体で本会の主催する事業に参加を希望する者。

第5条 本会に入会しようとする者は、住所氏名を記入し、会費を添えて会長に提出するものとする。

第6条 本会に次の役員を置く。

会 長 1 人
副 会 長 3 人以内
理 事 若 干 名
常任理事 10名以内
監 事 2 人

2. 会長は、総会において施行細則に基づき正会員より選出する。副会長、理事、常任理事、監事は会長が正会員の中から指名し、総会で承認を得る。
3. 会長が必要と認めたときは、埼玉県医師会会長の推薦する者を理事に委嘱することができる。

第7条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはその職務を代行する。

理事は会務を分担して処理する。

常任理事は理事の中から選出し、会務分担、業務執行を円滑にする。

監事は、会務及び財産状況を監査する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任を妨げない。

第9条 本会に学術、保険等各種委員会をおくことができる。その設置並びに委員については、役員会において決定するものとする。

第10条 本会に名誉会長、顧問、参与を置き、会長がこれを推薦することができる。

第11条 集会は、定例総会及び学術集会として年1回会長が招集する。ただし必要により臨時に招集することができる。

2. 総会の議長は、出席した正会員の中より選任する。
3. 総会の議決は、出席した正会員の過半数の同意をもってし可否同数のときは議長が決する。
4. 次に掲げる事項は、総会において議決又は承認を得なければならない。
 - (1) 事業計画及び収支予算に関する事項
 - (2) 収支決算に関する事項
 - (3) 会則の変更に関する事項

5. 会長は、次の事項を総会に報告するものとする。

- (1) 役員会における議事事項
- (2) 庶務及び会計報告
- (3) 事業報告

第12条 臨時総会は、役員会の議決又は正会員4分の1以上の要求がありたる場合に会長が招集する。

第13条 役員会は、会長が招集する。

次の事項は、役員会の議決を得なければならない。

- (1) 総会に提出すべき事項
- (2) 会務執行に関する事項
- (3) 会長が必要と認める事項

第14条 議決は、総て正会員出席者の過半数をもってしなければならない。可否同数のときは議長が決する。

第15条 本会の経費は会費及び寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条 本会の会費は、次のとおりとし、毎年4月に納入する。

- (1) 正会員 3,000円
- (2) 賛助会員 30,000円

ただし名誉会長、顧問、77歳を越えた正会員の会費は免除する。

第17条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第18条 総会及び役員会において議決した事項は、埼玉県医師会長に報告するものとする。

附 則	1. 昭和39年11月27日	施 行
	2. 昭和55年10月19日	一部改正
	3. 昭和59年5月27日	一部改正
	4. 昭和59年10月17日	一部改正
	5. 昭和61年10月26日	一部改正
	6. 平成3年5月12日	一部改正
	7. 平成4年7月5日	一部改正
	8. 平成6年5月29日	一部改正
	9. 平成8年5月26日	一部改正
	10. 平成9年11月9日	一部改正
	11. 平成10年9月27日	一部改正
	12. 平成15年5月11日	一部改正
	13. 平成24年6月10日	一部改正

埼玉県皮膚科医会施行細則

第1条 会長は、会長候補者推薦委員会が次期会長候補者名簿を総会に提出して選出する。

2. 会長候補者推薦委員会は、会長を除く役員会の議決により選出された正会員5名で構成する。

3. 会長候補者推薦委員長は、会長候補者推薦委員の互選による。

《埼玉県皮膚科医会会報投稿規定》

2017年5月改訂

会員の皆様がより充実した皮膚科医生活を送れるよう、また会員同士の親睦を深められるよう、内容のある、そして読んで楽しめる会誌を作成したいと思っております。そこで、委員会や例会の報告に加え、広く会員の皆様からのご投稿をお願いし、紙面の充実を図りたいと思います。

原稿はできるだけワープロ・パソコンで作成し、データをメールまたはCD-Rで送っていただければ幸いです。もちろん手書きの原稿も大歓迎です。

ただし、内容により、編集委員会が本誌に相応しくないと判断した場合には掲載をお断りすることもあります。

【フォト】

カラー、モノクロとも一人2枚まで。題と簡単な説明文、また可能な限り撮影条件も記してください。なお、表紙写真（「埼玉の風物」がテーマ）はご投稿いただいた作品の中から編集委員会が選ばせて頂きます。

【随筆】

日常生活・診療の場や学会・旅行などで見聞・体験したこと、実践していること、心に浮かんだことなどを、気ままに自由な形式でお書きください。著者の顔写真のほか、スナップ写真、絵などを含め、2,500字以内でご執筆ください。

【マイホビー、いい店・好きな店】

趣味やごひいきのお店（飲食店に限らず、雑貨、文具など楽しいお店やお気に入りのお店、ただし県内に限ります）をご紹介ください。1,200字以内でご執筆いただき、写真、地図、電話番号などを添えてください。

【娯楽ページ（Dermaあごら）】

決められた「お題」（毎回前号に記載）に関する写真、川柳、小噺、イラストなどをご投稿ください。

【近況報告（クリニック・病院）】

クリニックや病院における最近の診療状況や取り巻く環境の変化など、近況をご報告ください。1,200字程度でご執筆いただき、写真を添えてください。

【入会挨拶】

卒業年、出身校、開業地、医療機関名は必ず記載してください。また顔写真のほか、入会のいきさつ、現在の状況、心境など自由に400字以内でご執筆ください。

<原稿送付先>

埼玉県皮膚科医会ホームページ (<http://saitamahifuka.org/>)、「会員ページ」内の会報投稿メールより、または下記編集委員会へご送付ください。

埼玉県皮膚科医会 会報編集委員会 宛

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-5-1

埼玉県医師会内

TEL 048-824-2611

FAX 048-822-8515

編集後記

今回のロシアのウクライナ侵攻は、平和を願う国際社会への挑戦であり、決して許されるものではありません。表紙の写真（前号まで表紙を飾った写真）のような平和な世界は私たちが大変な努力と時間を費やして作り上げてきたものですが、それが軍事力によって一瞬のうちに破壊されてしまうことは、想像しただけでも残酷で、辛い気持ちになります。ウクライナ国民の被害を憂い、侵攻の即時中止と紛争の平和的解決を強く望みます。2020年度まで広報委員長を務めていただいた寺木先生の「想定外の10年間」は実に身につまされる思いで拝読しました。最後の一文は寺木先生らしく、きっと「想定外なことが起きて」タチアナ・マクファーデンのように乗り越えられると信じています。

Ya sama!

（会長：仲 弥）

記念すべき10号も無事完成しました、とは言え、特集を読む限りたった10年でも全く無事だった方は少ないようです。私今回は表紙の写真選別が印象に残りました。最終的には10号特集を示すものになりましたが、有力候補だった写真が2枚ありました。1つは桜の下での新1年生の集い（私撮影）、1つは美しいながらも兵器であるゼロ戦の写真です。ウクライナ紛争が泥沼の最中で日本には平和な風景がある事、その日本も昔は戦争をしていた事実、、今の自分は幸せだけどそれが続く保証はない、感謝と恐怖が混じる複雑な思いをもって作業させて頂きました。思えば桜の写真の日は思わず散歩に出るほど穏やかでした。あんな日がこれからも、と祈るこの頃です。

（編集委員長：齋藤 京）

昨年、瀬戸内寂聴さんが99歳でなくなりました。私は彼女のファンで「瀬戸内寂聴の日めくりカレンダー」を毎年購入していました。生前に書き留めたもので今年のカレンダーが作られています。おそらく今年が最後でしょう。寺木先生の「この10年を振り返る（想定外の10年間）」の原稿を想いつつ、5月某日のひとことを引用し、今年の編集後記とさせていただきます。

「戦争、高度経済成長、バブル崩壊、天災、そして、ウイルスに襲われた現代まで全てを経験した私が言えることは、明日何が起こるか分からないのが人生だということ。今を生き切る、それだけです。」

（編集委員：秋元幸子）

随筆、アゴラ、豆知識のコーナーに色々書いてきました。物事は言葉で100%表現できませんし、物事の論理は新たな知見で変わっていくので、ウソはつきものです。それを書にし、後世に残してしまうのですから、恥をかくことだと思っています。性懲りもなく、照れながら続けたいと思っています。

（編集委員：石田 卓）

COVID-19の世界的大流行にも驚きましたが、ロシアのウクライナ侵攻には度肝を抜かれました。でっち上げの理由で他国に攻め込み自国の支配下におこうとする国が存在するとは、過去にタイムスリップしたような気がします。日本が侵略される心配もしなくてはならないのでしょうか？戦争反対!! ウクライナに一刻も早く平和が訪れますように。会報誌の編集に関わるようになって早くも7年目ですが、今回は齋藤先生、中捨先生に頼りきって、これまでにない働かなかった気がします。まだ引退じゃないですね。すみません。反省します。

（編集委員：梅本尚可）

物事1年単位だと、あまり代わりがないように感じるが、10年単位ともなると随分と色々変化を感じるものである。人生100年時代と言っても、殆どの人は10年を7～8回経験するだけである。人生のどの10年が最も良かったかを思ってみたが、良かったことも、悪かったことも、自分にとってはどちらも愛おしく、順番をつけるのは無理なことである。

この10年間は、暗いニュースが多かったが、ここに来て、良いニュースが入ってきた。それは、私の母校の先輩である松本先生の日本医師会会長選の立候補の話である。松本先生は数年前に日本医師会の常任理事になられましたが、なられた頃に比べると、最近少し元気がないのかなあと感じていました。コロナ、コロナで忙しく、日本医師会の権力闘争？など、少しくんざりされていらっしゃるのかなあ、などと勝手な想像をしておりました。しかし、ここに来て、急転直下、医師会会長候補である、医師会が大きく変わるような予感もします。さぞ大変と思いますが、きっと、天使は松本先生の肩に舞い降りるでしょう。
(編集委員：寺木祐一)

昔話ですが特集で触れた父が緩和ケアと看取りが必要な状態で入院したのは専門医試験の1ヶ月前のことでした。がん専門病院がもう終わりと言うので自分の職場に引き取り1ヶ月間主治医をさせてもらいました。試験の1週間前に看取りと葬儀が来てその年は諦めかけましたが、その直前の転職も試験の失敗も父のせいにするのは失礼だし、何よりかっこ悪いと思いなんとか通しました。今ではそんなストーリーも父の優しさだったのだらうと思います。管理職になって父に経験談を聞きたいと思うことがあるのですが、生前聞いたのが「社員に肩叩きする時どう言うの」「お前そろそろ賞味期限やなって」「部下に絶対なりたくないわ」だったので参考になったかどうかはわかりません。
(編集委員：中捨克輝)

今号のマイホビー記事執筆にあたりポケコンで四半世紀ぶりに新作プログラムを組んだ。素材は初音ミク、20世紀には存在しなかったキャラクターだ。プログラミング作業中、ふと当時の家族や学校生活の追憶が浮かんできた。何もかもが懐かしく、丁度半世紀を生きた自分を振り返る時間でもあった。物や作品の裏には人の想いや記憶が詰まっている。その思いを汲み取れるかどうか、あるいは感じ方が人によって違うのは、歩んできた人生がそれぞれ異なるからである。時には断捨離も必要であるが、古くなっても捨ててはいけない各個人独自のものがあるだろう。私の青春時代にMacintoshは登場しない。それ故、医学部でMac信者がそれなりに居る事が未だに謎なのである。
(編集委員：人見勝博)

コトしも駐車場の片隅でツバメが巣を作っています。どこから渡って来るのだろうか？もしかしてロシア？と思いましたが、夏鳥ですからはるか遠く海を越えて南の国からです。マレーシアやベトナム、フィリピン等から渡ってきます。あの小さな体で何千キロも飛ぶのですね。長い旅路では海を島伝いに越えてくるそうです。そして、9月にはまた南へ戻って行きます。寿命は2年ほど、その間に同じ巣に戻ってくるツバメもいると知り、さらに愛着が湧きました。驚かせないようにこっそり巣を覗き、しばらく親鳥が戻らないと心配になります。さて、会報誌も10周年になりました。これまで多くの先生方にご執筆頂きありがとうございます。編集会議は東天紅でした。ツバメと言えば中華料理ではツバメの巣。東天紅にあるのかな？そして、今年は東天紅でできるでしょうか。
(編集委員：町野 哲)

さまざまな事情で次期日本医師会会長に立候補することになりました。

選挙日は令和4年6月25日です。

頑張って参りますので、御支援よろしくお願いいたします。

(編集委員：松本吉郎)

10歳と6歳の孫がいる。彼らはありったけの声や体を使って自分を十二分に表現している。そこに妥協はない。私はというと同じ繰返しの生活だが、その中に彼らは新しい発見をして目を輝かせている。私が見過ごしている様々なことに興味を持ち、体ごと泣いたり笑ったりして新しい経験に体を震わせている。身のこなしも軽いし、とんでもなくエネルギッシュである。時の経つのが速いこと。新幹線から周囲の景色を否応なく見せつけられている感じである。彼らから学びたいものである。

(編集委員：矢島 純)

この後記を書く時点で、松本吉郎先生のお名前がネットを飛び回っています。日本医師会の常任理事になられたときに、次は日医の会長を目指すのかとお聞きしたところ、「それはない」と即座に否定されたのが昨日のことのようです。皆様もご承知のごとく素晴らしい方なので、スーパーマンのように飛んでいくと期待しています(意味不明?)。こんな「身近」にいらっしゃる方がご活躍されるのは、大変喜ばしいことで大きな驚きですね。

(編集委員：横井 清)

豆 知 識

『ペニシリン-セフェム系交叉反応の頻度』『似たような言葉』『アタマジラミ、ケジラミ、コロモジラミとヒトの歴史』『ハイリスクHPVと子宮頸癌、中咽頭癌』

豆知識は石田 卓先生より資料をいただきました。



日本皮膚科学会東京支部「学校保健 講師派遣制度」をご活用ください

日本皮膚科学会、日本臨床皮膚科医会、日本小児皮膚科学会の会員はこれまで個別に、園児・学童・生徒・学生および保護者・教職員への保健指導・教育活動を行ってきました。2015年4月より、日本皮膚科学会、日本臨床皮膚科医会、日本小児皮膚科学会の連携を強化し、より効率的な学校保健活動の運営を目的として、日本皮膚科学会東京支部は講師派遣の支援を行うこととなりました。

支援活動の内容は、学校からの申請による講師（皮膚科医）の選定、および講師に対する謝礼・交通費の支払いです。事務は東京支部事務局が行います。詳細は日本皮膚科学会東京支部ホームページ（<http://dermatky.umin.jp/>）をご覧ください。なお、埼玉県皮膚科医会のホームページ（<http://saitamahifuka.org/>）からもリンクできます。

埼玉県皮膚科医会会報 第10号

印 刷 2022年 6 月10日
発 行 2022年 6 月20日
発行所 埼玉県皮膚科医会
〒330-0062 さいたま市浦和区仲町 3-5-1
埼玉県医師会内
TEL. 048 (824) 2611
発行責任者 会長 仲 弥
編集委員長 齋藤 京
編 集 委 員 秋元幸子、石田 卓、梅本尚可
寺木祐一、中捨克輝、人見勝博
町野 哲、松本吉郎、矢島 純
横井 清

印刷所 瑞穂印刷株式会社
〒164-0014 東京都中野区南台 2-16-2
TEL 03 (5385) 2711 (代表)

(無断転載を禁ずる)

ISBN 978-4-89609-013-0 C3047